

大田市 スポーツ 推進計画

(後期計画:H24 ~ H28年度)



大田市教育委員会

平成24年3月

大田市スポーツ推進計画

(後期計画：H24～H28年度)

《 目 次 》

I. 計画策定にあたって	4
第1 計画策定の趣旨	4
第2 計画の位置づけ	4
第3 計画の期間	4
第4 現状把握と課題の抽出	4
後期計画に向けた課題	5
II. 計画の体系	6
第1 計画の基本理念	7
第2 計画の方向と目標	7
1. スポーツ機会の創造	7
2. スポーツ施設の整備	7
3. スポーツ活動による地域再生と健康づくり	7
第3 基本施策	8
1. 生涯スポーツの推進	8
(1) 働き盛り層のスポーツ活動の推進	8
(2) 中高年齢層のスポーツ活動の推進	9
(3) スポーツ・レクリエーション活動の推進	10
(4) 障がい者スポーツ活動の推進	11
2. 競技スポーツの強化	12
(1) 競技力向上に向けた体制の強化	12
(2) 観るスポーツの推進	13
3. 学校体育・スポーツの強化	14
(1) 幼保・小中・高校生のスポーツ活動の推進	14
(2) 体育授業の充実・強化	15
4. 推進体制の強化	17
(1) スポーツ活動を推進するリーダーの育成・強化	17
(2) スポーツ活動を推進する各団体組織の連携・強化	17
(3) 地域を中核としたスポーツ活動の推進	18
(4) スポーツを支える活動の推進	19

5. 施設・設備の整備・充実	2 1
(1) 施設・設備の整備	2 1
(2) 効率的・効果的な施設の運営	2 2
Ⅲ. 計画の推進及び進行管理	2 3
第1 計画の推進	2 3
1. 市民の理解と協力	2 3
2. 市内スポーツ関係団体との連携	2 3
3. 島根県及び島根県体育協会等との連携	2 3
4. 学校・家庭・地域の連携	2 3
5. 行政内部の連携	2 3
6. 計画推進の財政措置	2 4
第2 進行管理	2 4
1. 情報の受発信	2 4
2. 計画の評価及び見直し	2 4
Ⅳ. 資料編	2 5
◆生涯学習課アンケート調査	
○設問内容	2 6
○集計結果	3 2
◆健康保険年金課アンケート調査	4 7
◆スポーツ推進計画策定にかかる意見聴取結果	
○ブロック別意見交換会	5 0
○スポーツ関係団体調査	
・スポーツ少年団	5 2
・大田市体育協会加盟競技団体	5 4
・地区体育協会	5 6
・体育指導委員（現スポーツ推進委員）	5 8
・小学校・中学校	6 0
○スポーツ関係団体意見交換会	6 1
○後期計画中間報告会	6 3
◆体育施設一覧表	6 4
◆大田市スポーツ少年団の状況	6 5
◆小・中学校体育館施設開放状況	6 6
◆体育施設利用状況	6 7
◆大田市スポーツ推進計画策定経過	7 0
◆大田市スポーツ振興審議会委員名簿	7 1
（現 大田市スポーツ推進審議会委員）	

（表紙写真：2010 三瓶高原クロスカントリー大会ウォークラン）

I 計画策定にあたって

第1 計画策定の趣旨

当市においては平成18年度に「生涯にわたるスポーツライフの実現」に向けて「大田市スポーツ振興計画（前期計画：H19～H23年度）」を策定し、さまざまな施策を展開してきた。

一方、国においては平成23年6月に「スポーツ振興法」を全面改定し、新たに「スポーツ基本法」を制定した。この法律の中では、地域スポーツの新たな役割として地域間交流の促進による「地域再生」や心身の健康づくりを通じた「長寿社会の実現」に貢献すること等が求められている。

こうした中、今年度は前期計画の最終年度を迎えることから、これまでのスポーツ振興施策を検証するとともに「スポーツ基本法」の理念を踏まえ、新たな「大田市スポーツ推進計画（後期計画）」を策定することとした。

第2 計画の位置づけ

この計画は、「大田市総合計画後期計画（平成24年度～平成28年度）」のスポーツ推進に関する部門計画として位置づけるものとする。

第3 計画の期間

この計画は、平成24年度を初年度とし、平成28年度を最終年度とする5カ年計画とする。

第4 現状把握と課題の抽出

後期計画を策定するにあたり、市民のスポーツに関する現状及びニーズを的確に把握するため、下記を実施し意見を集約した。

- 「生涯学習課アンケート調査」 市民1,080人を対象。
- 「健康保険年金課アンケート調査」 市民1,080人を対象。
- 「ブロック別意見交換会」 市内7ブロックで開催。
- 「スポーツ関係団体調査」 スポーツ少年団23団体、大田市体育協会加盟32競技団体、市内27地区体育協会、26小・中学校、大田市体育指導委員（現大田市スポーツ推進委員。以下「スポーツ推進委員」という。）27人を対象。
- 「スポーツ関係団体意見交換会」 市内スポーツ関係団体代表者対象。

そしてこれらをもとに新たに成立した「スポーツ基本法」の趣旨を踏まえて、後期計画に向けた課題を次のとおり抽出した。

後期計画に向けた課題

課題 1. 「何のためにスポーツをするのか」など、スポーツの必要性の再整理が必要

平成 2 2 年度に文部科学省が策定した「スポーツ立国戦略」や同 2 3 年 6 月に成立した「スポーツ基本法」では、地域スポーツの新たな役割として「地域再生」や「長寿社会の実現」などに貢献することが期待されている。市のスポーツ振興計画見直しに当たっては、こうした観点を踏まえ、スポーツを楽しむや娯楽、心身のリフレッシュのためというこれまでの「生涯スポーツ」の位置づけに加え、学校・地域連携、健康増進、体力向上、子育て支援など地域の課題解決も視野に入れたより有効な手段として捉え直していく必要がある。

課題 2. 地方公共団体の責務としてのスポーツ推進が必要

上記基本法のもと、国は施策を総合的に策定し実施する責務を、地方自治体は国と連携し、地域の特性に応じた施策を策定し実施する責務を有する。

この間の後期計画に向けた課題抽出に当たり、大前提となる「前期計画」の存在がほとんど知られていなかったという深刻な現状が明らかとなった。当市の主体性と責務が問われかねないこの課題解決にあらゆる手立てを尽くす必要がある。

課題 3. 中高年齢層（概ね 50 歳代以上）への対策が必要

市の健康づくりにかかる諸事業と連携しながら、中山間地域などスポーツ機会が少なく、移動に制約のある地域でもスポーツをする機会を積極的に提供していくことなどにより、各施策における「運動・スポーツ」の役割を強化していく必要がある。また、それらによって長期的には医療費の削減へとつなげていく観点も求められる。

課題 4. 働き盛り層（20～50 歳代）への対策が必要

利用者ニーズを考慮し、スポーツ教室などのあり方を見直すとともに、スポーツ活動に取り組めるよう事業所への協力を要請する必要がある。

課題 5. 子どもの体力不足対策

学校現場における体育授業の強化を図るため、幼保・小中・高連携指導に向けた関係者の話し合いの場を確保するなど、元気な大田の子どもを育てる必要がある。

課題 6. 各種施設への対策が必要

厳しい財政状況のもとでのあり方、老朽化施設の整理統合とともに耐震補強や整備の工夫と魅力ある運営が必要である。

課題 7. 指導者の育成・確保及び連携が必要

スポーツ推進委員の充実・強化、民間事業者との連携及び地域指導者の確保が必要である。また、学校とスポーツ団体の話し合いの場の確保が必要である。

課題 8. 資金の確保が必要

官民による基金等の造成などが必要である。

課題 9. 情報提供の工夫が必要

市内のスポーツに関する情報を、官民の連携により効果的に受発信できるよう新たなシステムを構築していくことが必要である。

課題 10. 少子高齢化・人口減少を考慮した対策が必要

地域へ「出かける」という基本姿勢を持つとともに、夢と感動を与え、意欲を引き出す施策の展開が必要である。

これらの課題を踏まえ、その解決に向けた具体的施策を次に示す計画の体系により展開していくこととする。

第1 計画の基本理念

新たに制定された「スポーツ基本法」においては、「スポーツは世界の人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすものであり、言語や生活習慣の違いを超え、人類が共同して発展させてきた世界共通の文化の一つである。またスポーツは人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化やスポーツ産業の広がりによる経済効果など明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできない存在である。」とし、新たなスポーツ文化の確立について提唱している。こうした「スポーツ基本法」の目指す新たな精神に対応していくとともに、これまで本市が実践してきた前期計画の結果を十分に踏まえ、次の基本理念を設定し、計画を推進することとする。

基本理念

『生涯にわたるスポーツライフの実現～新たなスポーツ文化の確立※』

第2 計画の方向と目標

1. スポーツ機会の創造

明日を担う子どもたちの心身の健全育成から働き盛り層、中高年齢層の健康増進などライフステージに応じたスポーツ活動をさらに創造していくことが必要である。また、それらを支える地域コミュニティの充実・発展を図るため、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備を進めることが必要である。

2. スポーツ施設の整備

市民のスポーツ機会の創造のため、身近なスポーツ施設の活用を図るとともに、既存施設の改修や設備の更新、耐震補強など、適切な整備と管理運営が必要である。

3. スポーツ活動による地域再生と健康づくり

「スポーツ基本法」の成立により、スポーツの役割は大きく見直されてきた。人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものとして地域社会の再生に寄与することや、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものとして健康で活力に満ちた長寿社会の実現に貢献すること等が求められている。これらを新たなスポーツの役割として位置付け、施策を推進していく必要がある。

また、スポーツは自ら行うことのほかに、観戦することなど観て楽しむことやスポーツの大会運営スタッフなどボランティアとして支援することができる。このようなスポーツへの多様な関わりも推進していく必要がある。

※ 新たなスポーツ文化の確立・・・スポーツ基本法で新たに謳われたスポーツ推進上の基本理念。旧スポーツ振興法ではスポーツが「運動競技及び身体運動。心身の健全な発達を図るためにされる」と正味の定義に留まっていたのに対し、基本法では「スポーツは世界共通の人類の文化である」と捉え直し、さらに「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利である」と位置づけている。
こうした新たなスポーツの価値を理解し、日常的な環境の中で普及・発展させていくこと

第3 基本施策

1. 生涯スポーツの推進

スポーツは、体力の向上や健康の増進に極めて効果的であるとともに、人と人、地域と地域を結ぶコミュニティの場でもあり、生涯にわたって活力のある市民生活を営む上で基盤となるものである。とりわけ、働き盛り層のスポーツ機会の拡充や中高年齢層の体力づくり支援など、市民誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができることが必要である。また、障がい者スポーツについては、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障がいの種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進していくことが必要である。

(1) 働き盛り層のスポーツ活動の推進

〈現状と課題〉

- ① 生涯学習課アンケート調査において「この一年間で運動をしたことがあるか。」の質問に対して、働き盛りである20歳代～50歳代の中では、「運動をした。」と答えた人が約70パーセントあり、数値上から見ると比較的高い。しかし健康保険年金課アンケート調査では「普段運動をしていない。」と答えている人の中で、同世代の割合をみると72パーセントを占めており、特に女性の30歳代においては8割以上の人が日頃運動をしていないことがわかる。
- ② これらの「運動が出来ない理由」を生涯学習課アンケート調査で見ると、運動意欲はあるが「仕事が忙しい」「家事が忙しい」「子育て」「親の介護」などで時間が持てないとする。
- ③ 「総合型地域スポーツクラブに関する有識者会議(H21年度文部科学省)」の提言をみると、日本では学校と企業を中心にスポーツが発展してきたため、学校を卒業すると同時に運動する場が急に減り、働き盛り層の人がスポーツに親しむ環境が薄れてきている状況にあると指摘されている。当市の実態としてもブロック別意見交換会やスポーツ団体意見交換会のなかで「企業の元気がなくなり、社会全体がスポーツ(厚生)など力を入れなくなった。」「職場対抗などもできなくなった。」という意見が出ている。
- ④ ブロック別意見交換会では、「現役世代はスポーツの機会が少ない。」、スポーツ推進委員のスポーツ関係団体調査の意見では「現在実施されている教室、イベント等は高齢者向けが多く、子どもや親世代のライフスタイルにあったスケジュールになっていない。」などの意見がある。働き盛りと言われる人たちがスポーツに参加し、交流する機会が少ないことがわかる。
- ⑤ 生涯学習課アンケート調査では、「若者にも魅力ある取り組みをしてほしい。」という意見や「若者の声を聞く機会を作してほしい。」という意見がある。

〈今後の施策の方向〉

定期的な運動時間の確保が困難で、スポーツに親しみの薄い働き盛り層の市民に向け、改めてスポーツの必要性についての意識啓発を進めるとともに、参加しやすいスケジュールや内容の設定などニーズを考慮したスポーツ施策に取り組んでいく必要がある。また、健康づくりの観点から市内事業所の理解、協力を促すことも重要である。

〈具体的な施策〉

- ① これまでのスポーツ施策を見直し、利用者ニーズに配慮した誰もが参加できるスポーツイベントやスポーツ教室を開催する。
- ② 市民のスポーツの場を拡充するため温泉津地域や仁摩地域など総合型地域スポーツクラブの未設置地域への新たな設立を目指す。
- ③ 市の健康福祉部局との連携による事業所への働きかけを実施し、スポーツや運動活動への動機付けを高める。
- ④ 若年層、男性、女性などカテゴリー別の話し合いの場を設定し、スポーツ活動を促すとともに、スポーツ施策に生かすため個別のニーズを把握する。

（２）中高年齢層のスポーツ活動の推進

〈現状と課題〉

- ① 「スポーツ立国戦略（H22年度文部科学省）」の中では、特に高齢者の体力づくり支援、普及啓発を実施するよう求めている。
- ② 生涯学習課アンケート調査を見ると、50歳代～70歳以上の人で「この一年で運動をした人」の割合は68パーセントとなっているが、健康保険年金課アンケート調査で「普段運動をしている」人の割合は32パーセントにとどまっている。
- ③ 運動が出来ない理由をみると、「自らの健康に問題があつて運動できない。」あるいは「運動すること自体をためらう」人が多い。
- ④ また生涯学習課アンケート調査では「付き合いが面倒だ」「嫌い・下手だ」というマイナス面での理由で参加していない人が16パーセントある。自由記述意見の中には「スポーツは、健康な人で運動が得意な人がするものという潜在意識がある」の回答がみられる。
- ⑤ 市が実施する健康づくり等の事業は、教育委員会のスポーツ教室、健康保険年金課の健康教室、高齢者福祉課の介護予防教室などがあるが、それぞれの方針に従って教室運営がなされており、十分な連携を図っているとは言えない。スポーツと健康がベストパートナーとして、それぞれの機能を十分発揮するために、体育、健康、福祉の各部門が密接な連携を図る必要がある。

〈今後の施策の方向〉

中高年齢層のスポーツ活動を進めるためには市の健康福祉部局の健康づくり事業と連携し、当事者が健康に関心を持つとともに体力に合ったスポーツを継続してでき

る運動の普及を図ることが必要である。これらを進めることにより、健康で活力のある地域社会を実現していくことが必要である。

〈具体的な施策〉

- ① スポーツを高齢者の健康づくりに一層生かすため、モデル地区を設定し、市の健康福祉部局との連携のもと、これまでの健康づくり事業を強化する。
- ② 大田市健康・体力づくり市民大会などで「新体力テスト」を実施し、スポーツの意義や自分の体力を知り、健康を考える機会とする。
- ③ 温泉津地域や仁摩地域など総合型地域スポーツクラブの未設置地域への新たな設立を目指す。

（3）スポーツ・レクリエーション活動の推進

〈現状と課題〉

- ① 生涯学習課アンケート調査において今後のスポーツ行事の参加希望をみると、「町内会のスポーツや行事」「健康教室」「教室・講演会」と身近で行われる事業に参加したい人が65パーセントを占めている。また自由意見の中では「身近で気軽にできる仲間と機会があれば出かけた。」とあるなど、気軽に楽しめるスポーツやレクリエーションが望まれている。
- ② 同アンケートでは「健康づくりに体育やスポーツ活動は必要か」の質問に対し、95パーセントの人が「必要だ」としている。大多数の市民が健康の維持増進にスポーツが必要であるとの認識を持っている。今後ますます高齢化が進むと予想される当市において、基礎体力の低下を防ぐためのスポーツを充実させることが必要である。
- ③ 平成23年に制定されたスポーツ基本法の中でも、健康づくりのためのスポーツ・レクリエーションという位置づけが強化されている。
- ④ 同アンケートの運動実施内容をみると「歩く」人の割合が一番多い。また、「今後大田市の施設整備や充実のために必要なことは何か」の質問においても、「ジョギング・ウォーキングコースの整備が必要」とあげている人の割合が多い。だれもがいつでも、どこでも、いつまでも、手軽にできるスポーツとして「歩く」ことへの関心が高いことがわかる。
- ⑤ スポーツ推進委員による「スポーツ教室」については、平成19年度からの実績報告をみると、開催地区が固定化され、いつも同じ人が参加するなど広がりには欠け、必ずしもニーズに応えきれていない現状が浮かび上がってくる。

〈今後の施策の方向〉

だれもがいつでも、どこでも、いつまでもでき、各々のライフステージに合ったスポーツを引き続き推進する。また市民全体が取り組める種目のイベント開催を促すなど、日常的なスポーツ活動への動機付けを図る必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① 手軽にできる健康ウォークやウォーキングの普及を図るため、ウォーキング教室の開催やウォーキングマップの活用を進めるとともに、ウォーキングコースに距離表示を行うなど環境整備に努める。また、三瓶高原クロスカントリー大会への参加を奨励する。
- ② 三世代で参加できる市民体育祭やまちづくりセンター単位での団体対抗グラウンドゴルフ大会などの開催を検討する。
- ③ 誰でも気軽にスポーツ体験ができる場を提供している、健康・体力づくり市民大会を継続して開催する。
- ④ これまでのスポーツ施策の内容を見直し、地域へ“出かける”との方針を持ち、特に中山間地域でのスポーツ機会の充実を図る。

(4) 障がい者スポーツ活動の推進

〈現状と課題〉

当市での障がい者のスポーツ振興に関する事業については、市や市社会福祉協議会が中心となりイベントを開催してきた。「スポーツ基本法」では障がい者スポーツを重点化しており、当市においても行事等の合同開催などさらなる充実が必要である。

〈今後の施策の方向〉

障がい者スポーツに対する市民への意識啓発や情報提供を行うとともに、行事の合同開催など関係機関と検討する必要がある。

〈具体的な施策〉

島根県障がい者スポーツ大会への参加支援や行事の合同開催等について関係団体と協議を進める。



2. 競技スポーツの強化

競技スポーツにおいて、市民や当市の出身者が活躍し、好成績をあげることは市民に大きな誇りや喜び、感動を与え、地域の活力を生み出す。こうした効果を地域再生につなげていくため、当市における競技スポーツの向上に向けた体制を整備していく必要がある。また一流選手の活躍を「観る」ことで、スポーツを楽しみ、行う動機付けを広く醸成していく必要がある。

(1) 競技力向上に向けた体制の強化

〈現状と課題〉

- ① 当市では、全国規模の大会に参加する選手、チームに対して激励金を送り競技力向上施策の一つとして支援してきた。また当市では、選手育成、後継者育成、指導者の資質向上のために指導者研修会やリーダーバンクの活用事業を進めてきている。しかし、競技団体のスポーツ関係団体調査、ブロック別意見交換会、生涯学習課アンケート調査では協会運営役員、競技運営スタッフ、競技スポーツ愛好者の固定化・高齢化が進み、組織運営等に支障をきたしていると指摘されている。こうした課題に向かい合い、解決を見出していく時期にきている。
- ② 各年齢期の競技会で好成績をあげることのみを重視した指導により、バーンアウト（燃え尽き症候群）やオーバーユース（体の一部の使い過ぎによる故障）の状況が生じていることが、「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針（H23年度日本学術会議）」などのほか、スポーツ推進委員のスポーツ関係団体調査の中でも指摘されている。このことから長期展望のもと計画的に優れた才能を持つジュニア選手を発掘し、小学校から中学校、中学校から高校、高校から青年を通じた系統的な指導により競技力の向上を図る必要がある。

〈今後の施策の方向〉

競技力を充実させ、継続的な活動へ発展させるためには、市における重点競技を設定し、強化を図るなど競技力向上に向けた戦略を関係団体と共有するとともに、質の高い指導環境の実現を目指していくことが必要である。

〈具体的な施策〉

- ① 「大田市スポーツカレッジ（仮称）」を開催し、指導者の養成や資質向上を図る。
- ② 全国レベルの指導者やトップ選手を招へいし、一流に触れることにより、選手強化の意識付けを醸成する。
- ③ 市唯一の全国規模スポーツ大会として、三瓶高原クロスカントリー大会を継続開催する。
- ④ スポーツを指導した人、あるいは団体を支えた人、当市出身のトップ選手に対して功績をたたえるスポーツ顕彰制度を創設する。
- ⑤ 関係団体との協議を踏まえて市における重点競技を設定し、当市が全県に誇れる競技スポーツの育成に向け、強化を図る。

(2) 観るスポーツの推進

〈現状と課題〉

- ① 国は、スポーツ立国戦略の中で、「新たなスポーツ文化の確立」を目指して「人」を重視し、特にスポーツを楽しむ方法の一つとして「観る人」を重視している。近年スポーツ選手から学ぶことが多いため、注目を浴びるテーマになってきている。
- ② 生涯学習課アンケート調査で、「過去一年間スポーツを観戦したことがあるか」の質問に対して、観戦したという人が66パーセントあり、「観る」という形でスポーツに関わっている人が多いとわかる。
- ③ 当市では三瓶高原クロスカントリー大会、文部科学省・日本体育協会の派遣事業などによりトップアスリートを招いて教室や講演会、実技講習会を開くなど、一流に触れ、一流を「観る」事業を継続的に行っている。

〈今後の施策の方向〉

スポーツを「観る」ことは、子どもから大人にまで、大きな感動をもたらすことから、次世代を担う青少年に対し、トップアスリートなどと触れ合う機会を充実させる必要がある。また三瓶高原クロスカントリー大会を一層魅力的なスポーツイベントとして発展させる必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① 市民のスポーツに対する関心を一層高めるため、三瓶高原クロスカントリー大会にトップアスリートを招くなどして、高い技術を観る、あるいは指導を受ける機会を引き続き提供していく。
- ② 市民に広くスポーツへの関心を持ってもらうために、中学校や高校の各種大会や実業団チームの合宿を積極的に誘致する。
- ③ スポーツ関係図書についての更新、購入を進める。
- ④ 市内のスポーツ情報の受発信については、官民連携のもと効果的でわかりやすい新たなシステム構築を検討する。



3. 学校体育・スポーツの強化

スポーツは子どもたちにとって体力向上だけでなく、他者を尊重する精神を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きく貢献している。子どもたちが自らスポーツに取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質を身につけるためには、関係指導者の連携を強化するとともに学校体育を充実させ、教育活動全体、さらには家庭、地域において遊びやスポーツ活動に親しむ子どもを育てることが必要である。

(1) 幼保・小中・高校生のスポーツ活動の推進

〈現状と課題〉

- ① 国のスポーツ立国戦略では、体力向上を効果的に進めていくには、幼・小・中・高との連携や交流を進めていく必要があると指摘している。
- ② 「平成 22 年度文部科学白書（文部科学省）」によると、幼児、児童生徒の体力については、体力水準が高かった昭和 60 年頃と比較すると依然低い状況にある。ここ 10 年間では概ね子どもの体力の低下傾向に歯止めがかかるなど一定の成果も得ているが、国の「スポーツ振興基本計画（H18 年度文部科学省）」に掲げた子どもの体力向上施策、「子どもの体力の重要性の認識度」、「スポーツ環境の充実」がまだ十分な成果を上げていないなど、課題が残されている。
- ③ 学校関係のスポーツ関係団体調査をみると、当市の子どもの体育・スポーツに関する課題については、活動する子どもの確保、専門的な指導者の確保、活動場所、用器具の保証、安全・救急体制の確立など山積している。
- ④ また同調査では、運動部あるいはスポーツクラブ、スポーツ少年団への加入率の低下傾向が指摘されており、現にチームの編成が困難となり、その存続が危ぶまれている地区がある。また、スポーツ少年団と学校運営の立場の違いからさまざまな課題が生じていることが指摘されており、話し合いが必要となっている。
- ⑤ 当市のスポーツテストの結果（H22 年度）をみると、小学校の段階では全国、あるいは県平均値を上回っている種目が多いが、中学校では調査種目全般において下回る傾向にあり、小学校から中学校への連続性が損なわれていることがうかがえる。また、「ボール投げ」「握力」「シャトルラン」については、小学校の段階から国、県の平均値を下回っていることから、その歯止め策が必要とされている。

〈今後の施策の方向〉

- ① 学校の実情や子どもたちのニーズに応えるため、クラブ活動や部活動の支援、少子化に応じた取り組みを関係団体と検討し、進めていく必要がある。
- ② 新学習指導要領（H20 年度～）では、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う」という点から、幼児期から小学校教育、中学校教育、高校教育との円滑な接続を図ることが強調されており、元気な大田の子どもを育てるため幼時期から高校までの連携を強化する必要がある。
- ③ 子ども体力向上のためには、子ども自身が体を動かすことの楽しさを発見し、進ん

で体を動かすようになることが大切であり、体育の授業のみならず、遊具・体育施設を有効利用するなど、学校教育活動全体や家庭・地域のスポーツ活動を通じて運動に親しむ子どもを育てる必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① 小規模運動部活動や運動クラブ（スポーツ少年団）の活性化を促すために、他校、他チームとの合同化を促すとともに、スポーツ少年団の指導については、子どもの発達段階に応じた適切な指導がなされるよう配慮する。
- ② 元気な大田の子どもを育てるという観点から、学校間の連携を強化し、効果的な指導ができるよう連絡会議を設置する。
- ③ 学校遊具の設置・更新を行い、子どもたちが楽しみながら主体的に運動に親しむ習慣を身につけさせる。

（２）体育授業の充実・強化

〈現状と課題〉

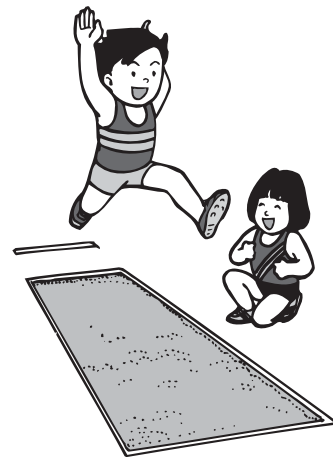
- ① 「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針（H23 年度日本学術会議）」では、子どもの体力向上の方策として「スポーツ活動・外遊び」を通じた体力づくりの重要性を強調している。こうした中、生涯学習課アンケート調査の結果では「子どもの体力づくりに必要なこと」の質問に対して、「学校体育の充実」が必要という回答が 26%を占めるなど、「部活動やスポーツ少年団への参加が必要」とする回答 23%を上回り、市民の学校体育充実への期待がうかがえる。
- ② 「平成 22 年度文部科学白書（文部科学省）」では、ここ 10 年間で子どもの体力低下は概ね歯止め傾向にあるとの報告がなされ、一定の成果を得たとする一方で、上昇傾向に転じるという目標に向けては「子どもの体力の重要性の認識度」、「スポーツ環境の充実」など、基本となる部分がなお不十分であると指摘されている。
- ③ 新学習指導要領（H20 年度～）では学校体育が改めて見直され、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培うことが重要視された。新学習指導要領は小学校では平成 23 年度から、中学校では平成 24 年度から、高等学校では平成 25 年度から完全実施となる。
- ④ さらに県教育委員会では平成 23 年度から県内小中学校の学校経営の必須事項に体力向上推進計画を登載することとなった。

〈今後の施策の方向〉

- ① 子どもの体力を向上させるため、魅力ある体育授業となるよう指導力の向上に努めるとともに、スポーツテストの結果を子どもたちに提供することにより、体力向上に向けての意欲の喚起を図る必要がある。
- ② 子どもの総合的な体力向上に向けて幼保から高校までの関係者が連携を強化するとともに、スポーツテストの結果を踏まえた効果的な指導を行うことが必要である。
- ③ 市の計画と学校教育現場の連携を一層図る必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① スポーツテストの結果を集約し分析することで各学校の体育経営に生かすとともに、子どもたちに各自の分析結果を認知させ、自己目標を設定した体力づくりが主体的にできるよう指導方法の改善を図る。
- ② 体力テストの結果を幼保、小、中、高で共有するとともに、連絡協議会を設置し課題解決のために協議する。
- ③ 体育授業の充実強化を図るために、学校体育の指導者の確保に向けて取り組む。
- ④ 国、県等が推進する健康体力づくり事業等への積極的な参加を通して、体力づくりの習慣化を図る。具体的には県教委が進めている「しまねっ子・元気アッププログラム」などへの積極的、継続的な参加を推進する。



4. 推進体制の強化

スポーツは人々の交流の輪を広げ、地域住民の連帯感を醸成し、地域の活性化につながるものである。当市においてスポーツ活動を推進していくためには、未設置地域に総合型地域スポーツクラブを新たに設立するなど身近にスポーツ機会を提供したり指導者による適切な指導が受けられる環境づくりを進めることが必要である。また、スポーツボランティアなど、さまざまな形でスポーツに関わる機会やスポーツ情報など積極的に提供していく必要がある。

(1) スポーツ活動を推進するリーダーの育成・強化

〈現状と課題〉

- ① ブロック別意見交換会やスポーツ推進委員、競技団体のスポーツ関係団体調査によると、スポーツ推進のためにはより多くの指導者が身近にいることが普及につながるため指導者の育成・確保が求められている。さらに様々な競技団体においても指導者の高齢化などにより後継者の不足が課題となっている。
- ② 現在スポーツ活動推進のため、スポーツ推進委員が各地域に出向き、スポーツ教室を開催したり、大田市健康・体力づくり市民大会に取り組んだりしている。スポーツ推進委員は「スポーツ基本法」により“スポーツ推進のための事業の実施にかかる連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導助言を行う”役割を持ち、生涯スポーツの推進役として欠かせない存在となっている。一方スポーツ推進委員のスポーツ関係団体調査によると、指導者としてスキルアップにかかる経費について自ら投資するなど、経済的に負担がかかる状況にもある。

〈今後の施策の方向〉

- ① スポーツ活動を継続的に推進するには、地域におけるスポーツの普及やスポーツに触れる機会を提供することが必要であり、そのため多くの指導者の確保や指導者のさらなる資質向上が必要である。
- ② スポーツ推進委員の健康・運動にかかる資格取得については、支援を検討する必要がある。

〈具体的施策〉

- ① スポーツ推進委員を充実、強化するとともにスポーツ推進委員全体の資質の向上を図るための研修や講習会を行う。
- ② スポーツ推進委員が行う健康・運動にかかる資格取得の経費助成を検討する。

(2) スポーツ活動を推進する各団体組織の連携・強化

〈現状と課題〉

- ① 現在、市内の多くの競技団体が大田市体育協会に加盟しているが、スポーツ関係団体意見交換会の感想から団体間の連携が十分に図られているとは言えない状況が指摘された。

- ② ブロック別意見交換会やスポーツ少年団のスポーツ関係団体調査では、小学校から中学校又は高校への連続性がないことや子どもを取り巻くスポーツ環境について、連携が図られていないことが指摘されている。
- ③ 近年特定非営利活動法人など民間組織が、大田市でスポーツを取り入れた健康づくり運動教室などの活動をしている。
- ④ 生涯学習課アンケート調査をはじめあらゆる調査において、スポーツ振興計画（前期計画）をほとんどの市民が知らなかった。

〈今後の施策の方向〉

- ① 市内で活動する各スポーツ団体は、それぞれ個々に活動を行っており、十分な連携が図られていない状況があることから、団体同士の連携を促し、それら団体を通じてスポーツ推進計画の理念や施策を周知徹底させていく必要がある。
- ② 大田の子どもたちを、スポーツを通じて健全に育成するため、学校連絡会議の情報を共有するなど、関係する団体がそれぞれ同じ認識のもとで取り組んでいくよう要請していく必要がある。
- ③ 民間組織などの新たな団体について、連携できる領域について協力し取り組んでいく必要がある。

〈具体的施策〉

- ① 大田市体育協会への働きかけを通じ、スポーツ関係団体の意識啓発を行うとともに連携を強化する。
- ② 大田の子どもたちを取り巻くスポーツ関係団体の連携を図り、学校連絡会議の情報を共有するなど、理解と協力を得ながら統一した認識で取り組むよう努める。
- ③ NPOなどの民間組織と情報交換するなど連携して取り組んでいく。

（3）地域を中核としたスポーツ活動の推進

〈現状と課題〉

- ① 総合型地域スポーツクラブは平成7年に国が提唱し、誰もがスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を目指すために創設支援がなされており、当市においても平成20年3月、大田一中校区に「銀・ギン・gin スポーツクラブ」が設立され、現在280名を超える会員が自主的にスポーツ活動を行っている。
- ② ブロック別意見交換会やスポーツ推進委員のスポーツ関係団体調査において、総合型地域スポーツクラブの設立を望む声が上がっている。しかし生涯学習課アンケート調査によると、約7割の人が銀・ギン・gin スポーツクラブを知らなかったと答え、さらに身近にスポーツクラブ等ができた場合、参加したいと答えた人は35パーセントにとどまり、53パーセントの人が、参加についてどちらともいえないという結果であった。
- ③ ブロック別意見交換会やスポーツ関係団体意見交換会では、小さなコミュニティ単位でのスポーツ行事の開催が参加しやすく持続性もあるという意見が出た。また移動に

制約がある地域の人に対応するためにも、地域へ「出かける」という考え方を持つことが求められている。

- ④ 各地区の体育協会では、地域コミュニティの醸成や運動機会の提供などのため、運動会など地域独自の行事を開催しているが、ブロック別意見交換会や地区体育協会のスポーツ関係団体調査などから、高齢化や行事への参加者の減少など様々な問題を抱えている。
- ⑤ 前期計画期間中の学校体育施設開放日数をみると、年々減少傾向にありスポーツをする機会の減少傾向がうかがえる。

〈今後の施策の方向〉

- ① 身近な地域において子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人がそれぞれの趣向・レベルに合わせて参加できる機会を提供するためには、総合型地域スポーツクラブの設立を目指す必要がある。
- ② 地域へ出かけるとの方針を持ち、スポーツ指導者を各地域へ派遣し、スポーツ教室等を開催することで、身近にスポーツ機会を提供する必要がある。
- ③ 市の健康福祉部局と連携のもと、モデル地区を設定してスポーツ指導者を派遣するなど、地域でのスポーツを生かした健康づくりを推進する必要がある。
- ④ 地域でのスポーツ振興を図るため、地区体育協会の活性化を図る必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① 温泉津地域や仁摩地域など総合型地域スポーツクラブの未設置地域への新たな設立を目指す。
- ② 身近でスポーツに触れる機会を提供するため、地域に出かけるとの方針を持ち、地域の要請に応じたスポーツ教室等へのスポーツ推進委員の派遣を引き続き実施する。
- ③ 市の健康福祉部局との連携による新たな要請に対応したスポーツ活動の取り組みを進め、元気で活力のある地域を創出する。
- ④ 大田市体育協会を通じて他地区の活動紹介や情報交換することで、地区体育協会を始め、スポーツ関係組織の総合的なレベルアップを図る。

(4) スポーツを支える活動の推進

〈現状と課題〉

- ① スポーツ教室等において指導者の補助的役割をする人やスポーツイベントの運営などに協力するスタッフ、大会への協賛金を支出する企業など、スポーツを支える力は必要不可欠であり三瓶高原クロスカントリー大会や小・中学校の各種大会などにおいても多くの人に支えられて大会運営がなされている。しかし、生涯学習課アンケート調査によると、スポーツを支える活動を知らなかった人は7割を超え、今後ボランティア活動に参加又は出来れば参加したいと答えた人は3割にとどまっている。
- ② スポーツ関係団体意見交換会では、スポーツ人口が減少しておりチームが成立せず競技出来ないなどの意見もあり、地域を超えた広い範囲でスポーツを通じた仲間づくりや交流のための情報発信、情報提供が求められている。

〈今後の施策の方向〉

- ① スポーツを支える活動については、継続・拡大できるよう努めることが必要である。
- ② それぞれの競技団体などが行っている活動を周知・理解してもらうための啓発や、スポーツ団体の活動や仲間づくりを進めるための広報活動を推進することが必要である。

〈具体的施策〉

- ① スポーツを支える活動について啓発するとともに、大会運営等について協力してもらうボランティアの登録制度の設立に努める。
- ② 市内スポーツ関係団体の活動紹介や新規加入者の募集などの情報を、大田市体育協会広報やホームページ、ケーブルテレビ等の活用により情報提供するよう努める。



5. 施設・設備の整備・充実

スポーツ活動を実践するには、安全で魅力的なスポーツ施設が身近にあることが望ましく、市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう施設・設備の整備・充実を図ることが必要である。

(1) 施設・設備の整備

〈現状と課題〉

- ① 市内には、総合体育館や野球場などのスポーツ施設をはじめ、自然を生かした登山道やクロスカントリーコースなど、多くの施設が整備されているが、昭和57年のくにびき国体の時に整備された施設が多く、また学校施設を含めると、耐震対策の必要な施設がある。
- ② ブロック別意見交換会をはじめ生涯学習課アンケート調査などでは、市内のスポーツ施設は大規模大会の誘致が出来ないなど中途半端との指摘が多い。また室内プールやグランドゴルフ専用施設、400メートル陸上競技場、テニスコートの増設などを望む声も多い。スポーツニーズの多様化や、近隣自治体での施設整備が進んでいることなどもあり、アンケート結果では市内のスポーツ施設に満足している人の割合が17パーセントに満たない結果となっている。市民のスポーツニーズに対応できるよう社会体育施設のゾーニングや既存施設の改修、適切な管理、設備の更新が求められている。
- ③ 平成23年度に久手小学校校庭を芝生化したところであるが、スポーツ少年団のスポーツ関係団体調査では、校庭の芝生化を求める意見が出ている。

〈今後の施策の方向〉

- ① 現在ある施設や公園など、社会体育施設については、耐震補強や設備の更新、適切な管理により、市民にとって安全で魅力あるスポーツ施設を目指す必要がある。
- ② 学校体育施設は、避難所などの役割も兼ねているため耐震補強を計画的に実施する必要がある。
- ③ 子どもの体力向上を図るため遊具の設置・改修等、施策を進める必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① 市内小学校やスポーツ施設、公園などに設置してある遊具を安全に使用できるよう適切な更新、管理を行う。
- ② 日本陸上競技連盟第4種公認を取得している大田市立第二中学校陸上競技場について、引き続き公認競技場として整備を行うとともに、一般の夜間使用ニーズにこたえるため、夜間照明を継続実施する。
- ③ 学校体育館の計画的な耐震補強を実施する。
- ④ 大田総合体育館の耐震補強を実施するとともに、大田市立第一中学校の体育館改築に合わせ、機能強化を図る。
- ⑤ 学校校庭の芝生化を計画的に実施する。
- ⑥ 大田運動公園多目的広場を芝生化する。

(2) 効率的・効果的な施設の運営

〈現状と課題〉

- ① 学校施設開放事業により市内小中学校の体育館及びグラウンドを地域に開放し、市民が気軽に利用している。また、近年の学校統合により、空校舎となった施設もあり、今後の活用について協議がなされている。
- ② ブロック別意見交換会では、スポーツ施設が第一中学校周辺、鳥井、久手と分散しているが、利便性の向上や管理上集中させた方が良いなど、スポーツゾーンの設定が望まれている。
- ③ 市内のスポーツ施設で、老朽化により使用できない施設がある。

〈今後の施策の方向〉

- ① 学校施設の開放により各地域でのスポーツ活動を推進するとともに、現存する施設や、学校統合により空校舎となった施設の有効利用が必要である。
- ② 社会体育施設の利便性の向上や効率的な運営の面からも、ゾーニングの設定を検討する必要がある。

〈具体的な施策〉

- ① 学校施設開放事業を引き続き実施し、地域のスポーツ拠点として活用する。
- ② 学校統合により空校舎となった学校体育館や校庭について、引き続き地域のスポーツ拠点として自主的活用を促す。
- ③ 今後の施設整備の方向性として、現在大田総合体育館や大田市民球場のある市民公園のエリアを新たに「生涯スポーツゾーン」として位置付け、計画的な施設整備を進めていくよう検討する。
- ④ 老朽化施設の整理・統合を行う。



Ⅲ 計画の推進及び進行管理

第1 計画の推進

計画の内容を効果的・効率的に推進するため、次の事項に留意した取り組みを行う。

1. 市民の理解と協力

スポーツ基本法では「スポーツは世界共通の人類の文化である」と捉え直し、さらに「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利である」と位置付けている。こうした新たなスポーツの価値を理解し、日常的な環境の中で普及・発展させていくよう市民の理解と協力を得ながら事業の推進を図る。

2. 市内スポーツ関係団体との連携

大田市体育協会や小学校体育連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟、スポーツ少年団本部などの体育協会加盟団体、銀・ギン・gin スポーツクラブなど市内スポーツ関係団体の活動を支援するとともに連携を密にし、スポーツ推進体制の充実に努める。

3. 島根県及び島根県体育協会等との連携

島根県及び島根県体育協会をはじめとするスポーツ関係組織・団体や、総合型地域スポーツクラブの創設・育成に必要なスポーツ各種情報、スポーツドクターや指導者の派遣、クラブ運営・活動等全般に対する指導支援などを行う「しまね広域スポーツセンター」との連携を図る。

4. 学校・家庭・地域の連携

子どもたちの体力向上を図るには、学校だけでなく家庭、地域が、運動クラブ、家庭生活、地域活動など幅広い分野で連携した取り組みを行う必要があり、子どもたちの体力向上の重要性について正しく認識できる連携体制の強化に努める。

5. 行政内部の連携

スポーツ活動を推進することで、子どもたちの体力向上、青少年の健全育成、市民の健康づくり、スポーツ活動を通じた地域間交流の活性化など多くの効果が期待できる。本計画の実現には、保健福祉分野の施策との連携が必要であり、行政内部の連携を強化し、横断的な情報交換や事業実施の協力をお互いに行うよう努める。

6. 計画推進の財政措置

市とスポーツ関係団体等は、計画を実現するために必要な予算等資金の確保とその調整に努め、行財政改革の方向性を遵守しながら計画的かつ有効に執行できるよう努める。

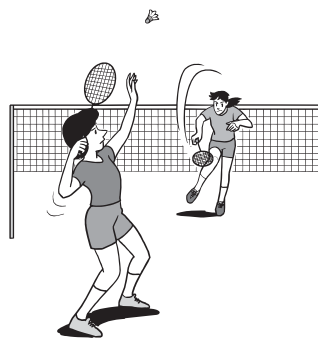
第2 進行管理

1. 情報の受発信

本計画を実現するためには、計画の存在を市民に伝えることが必要であり、市からはもちろん、体育協会、指定管理者、スポーツクラブなどそれぞれが役割に応じて積極的に発信していかなければならない。また、年々変化する市民ニーズ、社会・経済情勢の変化を的確に捉え、情報分析を行い、計画の見直しに活用するよう努める。

2. 計画の評価及び見直し

計画の円滑な達成のためには、事業実行に対する適切な評価が必要である。スポーツ関係団体や学校関係団体などの代表、学識経験者などで構成するスポーツ推進審議会において計画の評価及び見直しについて提言をいただき、必要に応じて計画の見直しを行う必要がある。



IV 資料編

- ◆生涯学習課アンケート調査
 - 設問内容
 - 集計結果
- ◆健康保険年金課アンケート調査
- ◆スポーツ推進計画策定に係る意見聴取結果
 - ブロック別意見交換会
 - スポーツ関係団体調査
 - ・スポーツ少年団
 - ・大田市体育協会加盟競技団体
 - ・地区体育協会
 - ・体育指導委員（現スポーツ推進委員）
 - ・小学校、中学校
 - スポーツ関係団体意見交換会
 - 後期計画中間報告会
- ◆体育施設一覧表
- ◆大田市スポーツ少年団の状況
- ◆小・中学校体育館施設開放状況
- ◆体育施設利用状況
- ◆大田市スポーツ推進計画策定経過
- ◆大田市スポーツ振興審議会委員名簿

大田市生涯スポーツアンケート調査

平成 23 年 8 月

- 1** 体育・運動やスポーツ等、生涯スポーツに関してご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

- 2** あなたの性別をお聞かせください。 ア、男 イ、女

- 3** 年齢をお聞かせください。 ア、10歳代 イ、20歳代 ウ、30歳代 エ、40歳代
オ、50歳代 カ、60歳代 キ、70歳以上

- 4** 居住区（公民館ブロック）をお聞かせください。

ア、中央ブロック（大田・川合・久利・大屋） イ、西部ブロック（鳥井・長久・静間・五十猛）
ウ、高山ブロック（大森・水上・祖式・大代） エ、東部ブロック（朝山・富山・波根・久手）
オ、三瓶ブロック（三瓶（池田・志学・多根）・山口）
カ、温泉津ブロック（温泉津・福波・湯里・井田）
キ、仁摩ブロック（仁万・天河内・宅野・大国・馬路） ク、その他（ ）

- 5** 家族構成をお聞かせください。

ア、一人 イ、一世帯 ウ、二世帯以上

- 6** 大田市では生涯にわたるスポーツライフの実現に向けて平成 19 年度から「大田市スポーツ振興計画」をたてて取り組んでいます。この計画についてお聞かせください。

※この計画について

ア、知っている イ、知らなかった

- 7** 個人での運動実施、体育・運動やスポーツ行事等への参加および頻度についてお尋ねします。過去一年間において、あなたは個人で運動したことがありますか。あるいは大田市や町内会などが開催する体育・運動やスポーツ行事等に参加したことがありますか。またそれをする機会はどのくらいでしたか。答えは【アンケート最後のページ： **7** 別表 I】にご記入ください。

- 8** **7** の質問で個人あるいは体育・運動やスポーツ行事等に「運動した。参加した。」と答えられた方にお尋ねします。

- 8** -①あなたは個人で運動した、あるいは体育・運動やスポーツ行事等参加した理由は何ですか。お聞かせください。 (○は3つまで)

ア、体育・運動やスポーツが好き
イ、競技会での好成績獲得
ウ、健康や体力の維持、増進のため
エ、自己記録や能力向上のため
オ、運動不足を解消するため
カ、運動施設や場所が近くにあるから
キ、学校や地域の行事
ク、友人、仲間との交流のため
ケ、美容や肥満解消のため
コ、家族との触れ合いのため
サ、ただなんとなく、とくに理由はない
シ、試合や大会の参加のため
ス、精神修養や鍛錬のため
セ、ストレス解消
ソ、その他（ ）

8－② 体育・運動やスポーツ活動をどこで行いましたか。お聞かせください。

(○は多い順に3つまで)

ア、大田市内の公共スポーツ施設

(大田総合体育館、温泉津総合体育館、仁摩健康公園、大田運動公園、市民球場・市民庭球場など)

イ、大田市内の学校の施設(体育館、運動場、武道場)

ウ、大田市内の公民館、まちづくりセンター、自治会館など公共施設

エ、民間・職場の施設

オ、公園・広場・緑地

カ、自宅内、庭

キ、近くの道路、空き地

ク、キャンプ場、スキー場

ケ、他市町村のスポーツ施設

コ、その他()

8－③ **8**－②で[他市町村のスポーツ施設]と答えた方だけお答えください。

他市町村のスポーツ施設を利用する理由は何ですか。(○は2つまで)

ア、身近に施設がないから

イ、仲間がいるから

ウ、他市町村の施設が使いやすいから

エ、安く使えるから

オ、指導者がいるから

カ、その他()

9 **7**の質問において「運動をしていない。参加していない。」とお答えになった方にお尋ねします。あなたが体育・運動やスポーツ行事等に参加するとき、どのようなことが妨げとなっていると思いますか。お聞かせください。(あてはまるものすべて)

ア、仕事、家事、育児が忙しく時間がない

イ、子供と一緒に参加できるものや託児施設がない

ウ、費用が高い

エ、指導者がいない

オ、身近に利用できる場所や施設がない

カ、病気、年齢など

キ、予約がとりにくい

ク、仲間がいない(足りない)

ケ、参加したいイベントが身近にない

コ、バリアフリーが未整備

サ、付き合いが面倒だ

シ、交通手段がない

ス、嫌い・下手だから

セ、スポーツをする必要がない

ソ、その他()

10 大田市では総合型地域スポーツクラブ[銀ギンgin]スポーツ教室が開催されていますが、この教室についてお聞かせください

10－①この教室があることを

ア、知っている

イ、知らなかった

ウ、すでに活動している

10－② **10**－①の質問で「知っている」「すでに活動している」という方にお聞きします。

※どのような方法で知りましたか。

ア、広報「おおだ」

イ、公民館

ウ、まちづくりセンター

エ、銀山テレビ

オ、知り合いから

カ、その他()

10－③ 身近に「総合型地域スポーツクラブ」のような運動ができるスポーツクラブ、教室、同好会などが出来た場合の参加について。

ア、参加してみたい

イ、参加したくない

ウ、どちらとも言えない

※その理由は()

11 あなたは、スポーツクラブや教室、同好会についてどのようなあり方が望ましいと思いますか。お聞かせください。(○は5つまで)

- ア、一種目のスポーツが体験できる
- イ、数多くのスポーツ種目が体験できる
- ウ、スポーツだけでなく、文化活動も並行して体験できる機会がある
- エ、定期的、継続的にスポーツ活動が体験できる
- オ、積極的に新しいスポーツ活動が体験できる
- カ、個々のスポーツのニーズ(興味・技術・体力に合わせて)に応じた指導や体制が整っている
- キ、子供から高齢者までの各年齢層が参加できる
- ク、初心者からトップレベルの人までの各技術レベルの人たちが参加できる
- ケ、主に地域の人たちが加入できる(各集落単位・小学校単位など)
- コ、地域にこだわらず、広範囲の人たちが加入できる
- サ、運営は、主に行政が担っている
- シ、運営は、主に参加者(参加団体や個人)が担っている
- ス、運営は、民間スポーツ組織が担っている
- セ、わからない
- ソ、その他()

12 今後体育・運動やスポーツ行事等が開催される場合、どのような行事に参加したいですか。お聞かせください。(○は2つまで)

- ア、野外活動(ハイキング・登山)
- イ、町内会などが開催する地域スポーツや行事
- ウ、試合、大会など
- エ、スポーツ教室、講演会
- オ、健康教室
- カ、スポーツイベント観戦
- キ、指導者、審判講習会
- ク、テスト(体力テスト、スポーツテストなど)
- ケ、参加したくない。(理由:)
- コ、その他()

13 大田市にある体育・運動やスポーツ施設についてお尋ねします。

13 - ① 大田市にある体育・運動スポーツ施設について、あなたはどのようにお考えでしょうか。お聞かせください。

- ア、大いに満足している
- イ、満足している
- ウ、少し不満がある
- エ、大いに不満がある
- オ、特に何も思わない(興味ない)

13 - ② その理由をお聞かせください。

- ア、施設の数も質も十分に整備されている
- イ、施設の質はよいが、数が不十分である
- ウ、施設の数には十分にあるが、質が不十分である
(規模が小さい、古い、設備が不十分)
- エ、施設の数も質も不十分である
- オ、不足している施設は近隣市町村の施設を共同利用すればよい
- カ、その他()

13 ー③大田市では、今後どのような公共スポーツ施設を整備・充実していくことが必要だと思いますか。お聞かせください。(〇は3つまで)

- ア、施設は市街地を中心に整理し、集中するべきである
- イ、簡素なスポーツ施設を数多く市内にバランスよく分散してほしい
- ウ、専用競技場（陸上競技場・野球・サッカー・テニス・グラウンドゴルフなど）
- エ、多目的運動場（ソフトボール・グラウンドゴルフ・ゲートボールなど）
- オ、体育館（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球など）
- カ、武道館（柔道・剣道・空手・レスリング）
- キ、室内トレーニング施設（筋力トレーニング・エアロビックなど）
- ク、室内（温水）プール（幼児プールを含む）
- ケ、野外プール（流水プールを含む）
- コ、アーチェリー場、弓道場、馬術場
- サ、ジョギングコース、ウォーキングコース
- シ、ハイキングコース、登山コース
- ス、キャンプ場
- セ、その他（ ）
- ソ、必要ない

14 スポーツの試合、大会の観戦についてお聞かせください。

14 ー① 過去一年間において、スポーツの試合を観戦したことがありますか。

- ア、ある
- イ、ない

14 ー② どのように観戦されましたか（複数回答可）

- ア、競技場などで直接観戦した
- イ、テレビ放送などで観戦した。
- ウ、スポーツを見たり聴いたりすることはない
- エ、その他（ ）

15 健康づくりと体育・運動やスポーツ活動の関係についてお尋ねします。

15 ー① あなたの最近の健康状態についてお聞かせください。

- ア、大いに健康
- イ、まあまあ健康
- ウ、あまり健康でない
- エ、健康でない
- オ、わからない
- カ、その他（ ）

15 ー②健康づくりに体育・運動やスポーツ活動は必要だと思いますか。

- ア、必要だ
- イ、必要ない

15 ー③「必要だ」とお答えの方、その理由をお聞かせください。

- ア、規則正しい生活が出来る
- イ、食事が美味しくとれる
- ウ、健康な身体になる
- エ、医療費が節約できる
- オ、禁酒、禁煙を考えることが出来る
- カ、美容のため
- キ、運動不足の解消
- ク、その他（ ）

15 ー④「必要ない」とお答えの方、その理由をお聞かせください。

- ア、規則正しい生活をすでにしている
- イ、今は健康な身体で必要ない
- ウ、嫌い、苦手、興味がない
- エ、運動なんて必要ない
- オ、する時間がない（それどころではない）
- カ、その他（ ）

16 市ではさまざまな「健康教室」等に指導者を派遣していますが、この派遣事業についてお聞かせください。

16 ー①この事業に参加したことが

- ア、ある
- イ、ない

16 ー②上記派遣事業に「参加したことがある」方にお尋ねします。

- ア、満足している イ、不満足
ウ、内容をもっと工夫してほしい（具体的に： ）
エ、継続してほしい オ、その他（ ）

17 子供の体力づくりについてお尋ねします。

子供にとっての体力づくりに何が必要だと思いませんか。お聞かせください。（○は1つ）

- ア、学校の体育の授業の充実 イ、スポーツ少年団活動への参加
ウ、スポーツ教室への参加 エ、外遊び
オ、部活動への参加 カ、その他（ ）

18 「スポーツを支える」ことについてお聞きいたします。「スポーツを支える」活動があることをご存知でしたか。

注)「スポーツを支える」とは、ボランティアとして競技者を支援したり、大会運営に協力したりすることをさします。

- ア、知っていたし、実践している イ、知っていたが実践したことがない
ウ、知らなかった

18 ー①あなたの今後におけるスポーツにかかわるボランティア活動の参加についてお聞きいたします。

- ア、ぜひ参加したい イ、できれば参加したい
ウ、あまり参加したいとは思わない エ、参加したいとは思わない
オ、その他（ ）

18 ー②上記[ぜひ参加したい できれば参加したい]とお答えいただいた方にお尋ねします。どのようなスポーツに関するボランティア活動をお望みですか。

- ア、地域のスポーツイベントの運営や世話
イ、日常的な団体、クラブの運営や世話
ウ、日常的なスポーツの指導 エ、日常的なスポーツの審判
オ、地域のスポーツイベントの審判 カ、日常的なスポーツ活動の管理の手伝い
キ、国、地方、県でのスポーツイベントの運営や世話
ク、国、地方、県でのスポーツイベントの審判
ケ、そのた（ ）

～ご協力ありがとうございました～

※体育とは

健全な身体の発達を促し、運動能力や健康で安全な生活を営む能力を育成し人間性を豊かにすることをいいます。

※運動とは

競技もしくは健康目的や趣味として身体を動かすことをいいます。

※スポーツとは

人間が考案した施設や技術、ルールによって遊戯、競技、肉体的鍛錬の要素を含む身体運動の総称をいいます。

7 別表Ⅰ 過去一年間に個人で運動を行った、あるいは体育・運動やスポーツ行事等への参加及び頻度について

《この表の書き方手順》 Ⅰ、まず「①運動した。参加した。」か「②運動をしていない。参加していない。」かを選択し、番号を○印で囲んでください。 Ⅱ、次に「①運動した。参加した。」という方は、下の1～43種目一覧から選び、番号を○印で囲んでください。(複数回答可) Ⅲ、次に下の種目(1～43)の中で選んだ種目の活動頻度を右欄(運動した。参加した。回数ア～カ)の該当箇所○印をしてください。		① 運動した。参加した。						② 運動していない。参加していない。
		ア、 (季節に合わせて) 年間に数回程度	イ、 月に1～2回程度	ウ、 週に1回程度	エ、 週に2回程度	オ、 週に3回程度	カ、 ほとんど毎日	
1	歩くこと(ウォーキング・散歩)							
2	走ること(ジョギング・軽いランニング)							
3	キャッチボールなど軽い運動							
4	縄跳び							
5	健康体操							
6	アクアウォーキング(水中歩行)							
7	グランドゴルフ							
8	サイクリング							
9	登山							
10	水泳(プール)							
11	ボウリング							
12	ゴルフ							
13	サッカー							
14	インディアカ							
15	フットサル							
16	スキー、スノーボード							
17	卓球							
18	ウェイトリフティング							
19	アーチェリー							
20	テニス							
21	バドミントン							
22	釣り							
23	エアロビクス							
24	弓道							
25	フォークダンス							
26	ダンス(社交・ジャズ)							
27	野球							
28	ラグビー							
29	海水浴							
30	バレーボール							
31	ソフトバレーボール							
32	ビーチバレーボール							
33	ゲートボール							
34	ソフトボール							
35	バスケットボール							
36	空手、柔道、剣道							
37	太極拳、合気道							
38	気功							
39	少林寺拳法							
40	マラソン							
41	陸上競技							
42	スポーツ観戦							
43	その他()							

生涯学習課 アンケート調査

1. 調査対象 : 平成23年8月1日現在市内在住者 1,080人(18歳から70歳以上までの男女各90人)
2. 1,080人を7ブロック(中央、東部、西部、三瓶、高山、温泉津、仁摩)で人口按分し、年代を6段階に分け、男女同数で均等抽出した。(各年代180人、男女各90人)
3. 調査方法 : 郵送による配布・回収
4. 調査機関 : 平成23年8月8日～平成23年8月29日
5. 調査回収数 内訳

年代別(問2～問3)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	計	回収率
男	22	21	29	37	31	39		179	33.1%
女	23	32	38	39	45	30		207	38.3%
不明							1	1	0.2%
計	45	53	67	76	76	69	1	387	35.8%

※ 有効回答数 386

問1. 意見や要望【自由記述】・・・35ページから42ページに添付

問4. 居住区

中央	西部	高山	東部	三瓶	温泉津	仁摩	計
149	58	22	62	18	29	48	386

問5. 家族構成

一人	一世帯	二世帯以上	不明	計
19	260	106	1	386

問6. スポーツ振興計画を知っていた

知っている	知らなかった	不明	計
65	320	1	386
16.8%	82.9%	0.3%	100.0%

計画を知らなかった人の割合が 83%

問7. 過去一年間で運動したことがあるか・・・種目・頻度は43ページに添付

	運動した	割合(%)	運動していない	割合(%)	総計
20歳代	30	66.7%	15	33.3%	45
30歳代	40	75.5%	13	24.5%	53
40歳代	52	77.6%	15	22.4%	67
50歳代	48	63.2%	28	36.8%	76
60歳代	51	67.1%	25	32.9%	76
70歳以上	51	73.9%	18	26.1%	69
総計	272	70.5%	114	29.5%	386

問8-1 問7で運動をする理由

体育・運動やスポーツが好き	84	30.9%
競技会での好成績獲得	1	0.4%
健康や体力の維持、増進のため	107	39.3%
自己記録や能力向上のため	0	0.0%
運動不足を解消するため	26	9.6%
運動施設や場所が近くにあるから	0	0.0%
学校や地域の行事	25	9.2%
友人、仲間との交流のため	13	4.8%
美容や肥満解消のため	5	1.8%
家族との触れ合いのため	2	0.7%
ただなんとなく、とくに理由はない	3	1.1%
試合や大会の参加のため	2	0.7%
精神修養や鍛錬のため	0	0.0%
ストレス解消	1	0.4%
その他	0	0.0%
無回答	3	1.1%
計	272	100%

・運動をする理由の約4割は、健康や体力の維持増進のため。
 ・次いで「好きだから」が約3割。
 ・運動不足の解消が約1割

問8-2 どこでスポーツを行ったか(複数回答)

大田市内の公共スポーツ施設	87	17.8%
大田市内の学校施設	90	18.4%
大田市内の公民館、まちづくりセンター、自治会館など公共施設	55	11.3%
民間・職場の施設	16	3.3%
公園・広場・緑地	41	8.4%
自宅内、庭	42	8.6%
近くの道路、空き地	91	18.6%
キャンプ場、スキー場	16	3.3%
他市町村のスポーツ施設	50	10.2%
計	488	100.0%

- ・市内の公共施設利用者
5割
- ・自宅や近所の空き地など
約3割
- ・市外のスポーツ施設
約1割

問8-3 他市町村のスポーツ施設を利用する理由(複数回答)

身近に施設がないから	26	32.5%
仲間がいるから	20	25.0%
他市町村の施設が使いやすいから	12	15.0%
安く使えるから	7	8.8%
指導者がいるから	7	8.8%
その他 ・他市町村での大会等参加(7人) ・友だちがほしいから(1人)	8	10.0%
計	80	100.0%

問9. 問7の運動をしていない人で、その理由(複数回答)

仕事、家事、育児が忙しく時間がない	79	25.8%
子どもと一緒に参加できるものや託児施設がない	9	2.9%
費用が高い	11	3.6%
指導者がいない	5	1.6%
身近に利用できる場所や施設がない	28	9.2%
病気、年齢	45	14.7%
予約がとりにくい	0	0.0%
仲間がいない(足りない)	16	5.2%
参加したいイベントが身近にない	27	8.8%
バリアフリーが未整備	1	0.3%
付き合いが面倒だ	17	5.6%
交通手段がない	29	9.5%
嫌い・下手だから	30	9.8%
スポーツをする必要がない	2	0.7%
その他 ・農作業が多忙で参加する気力がない ・ぎっくり腰、足が痛い ・親の介護 ・高齢 ・けがをしたため ・他の趣味の時間が多い ・病気をしている	7	2.3%
計	306	100.0%

- ・運動をしていない人の主な理由は、仕事、家事、育児が忙しい
約26%
- ・次いで、病気や年齢
約15%
- ・嫌い、下手だから
・交通手段がない
・身近に利用できる場所や施設がない
・参加したいイベントが身近にない など
約10%

問10-1 銀・ギン・ginスポーツクラブでスポーツ教室を開催していることについて

知っている	118	30.6%
知らなかった	265	68.7%
既に活動している	3	0.8%
計	386	100.0%

問10-2 問10-1で「知っている」、「既に活動している」人が、どのような方法で知ったか

広報「おおだ」	76	62.8%
公民館	2	1.7%
まちづくりセンター	4	3.3%
銀山テレビ	21	17.4%
知り合いから	12	9.9%
その他(総合体育館)	3	2.5%
回答なし	3	2.5%
計	121	100.0%

問10-3 身近に総合型地域スポーツクラブなどができた場合

参加してみたい 運動不足、健康づくり、仲間作り、運動が好き、近いなど	129	33.8%
参加したくない 病気、高齢、面倒、嫌い、時間がない、人の中が嫌など	55	14.4%
どちらともいえない 高齢・病気・忙しいなど今は無理、費用・内容がわからない 交通手段がない、知り合いが多い、運動ができない体など	198	51.8%
計	382	100.0%

問11. スポーツクラブや教室、同好会のあり方について(複数回答)

一種目のスポーツが体験できる	19	1.8%
数多くのスポーツが体験できる	128	12.4%
スポーツだけでなく文化活動も体験できる	90	8.7%
定期的、継続的に体験ができる	138	13.4%
積極的に新しいスポーツ活動が体験できる	26	2.5%
個々のニーズに応じた指導や体制	149	14.5%
子どもから高齢者まで各年齢層が参加できる	137	13.3%
初心者からトップレベルまで各レベルが参加できる	73	7.1%
主に地域の人が入会できる	24	2.3%
地域にこだわらず広範囲の人が加入できる	82	8.0%
運営は行政が担っている	26	2.5%
運営は参加者が担っている	24	2.3%
運営は民間が担っている	25	2.4%
分からない	76	7.4%
その他 ・無料ならどんなものでも参加 ・参加、退会が自由 ・出前教室的なものがよい ・子どもが一緒、または預けられる ・大田市にはプールがない ・行政が市民の健康維持・増進に積極的に関わってほしい ・しっかりした指導者がいる ・個人の都合に合わせて参加できる	13	1.3%
計	1030	100.0%

問12. 今後どのような行事に参加したいか(複数回答)

野外活動(ハイキング・登山)	29	2.7%
地域のスポーツや行事	246	22.8%
試合、大会など	284	26.4%
スポーツ教室・講演会	154	14.3%
健康教室	305	28.3%
スポーツイベント観戦	33	3.1%
指導者、審判講習会	16	1.5%
体力テストなど	3	0.3%
参加したくない(面倒、一人はいや)	5	0.5%
その他(面倒、高齢)	2	0.2%
計	1077	99.4%

参加したい行事は、
・健康教室
・試合、大会など
・地域のスポーツ、行事
の順

問13-1 大田市にある体育・運動施設について

大いに満足している	5	1.3%
満足している	59	15.3%
少し不満がある	114	29.5%
大いに不満がある	53	13.7%
特に何も思わない	152	39.4%
無回答	3	0.8%
計	386	100.0%

- ・大田市のスポーツ施設について、満足している割合は約17%
- ・不満がある人は約43%
- ・特に何も思わない人は約40%

問13-2 問13-1の理由

施設の質も数も十分整備されている	28	7.3%
施設の質はよいが数が不十分	35	9.1%
施設の数が多いが質が不十分	44	11.4%
施設の数も質も不十分	108	28.0%
不足している施設は近隣の施設を共同利用	31	8.0%
その他(知らない、温水プールがない、指導者不足など)	49	12.7%
無回答	91	23.6%
計	386	100.0%

- ・今後市が整備する必要がある施設は、
- ・室内プール
- ・ジョギング、ウォーキングコース
- ・専用競技場
- ・簡素な施設をバランスよく分散の順。

問13-3 市では、今後どのような施設を整備・充実していく必要があるか(複数回答)

施設は市街地を中心に整理・集中すべき	18	2.4%
簡素な施設をバランスよく分散	83	11.3%
専用競技場の整備(陸上、球技、GGなど)	93	12.6%
多目的運動場の整備	47	6.4%
体育館	35	4.8%
武道館	12	1.6%
室内トレーニング施設	73	9.9%
室内プール	148	20.1%
野外プール	13	1.8%
アーチェリー、弓道、馬術場	8	1.1%
ジョギングコース、ウォーキングコース	98	13.3%
ハイキング、登山コース	33	4.5%
キャンプ場	12	1.6%
その他(わからない、ハードよりソフト、財政的に無理、など)	22	3.0%
必要ない	41	5.6%
計	736	100.0%

問14-1 過去一年間でスポーツの試合を観戦したことがありますか

ある	255	66.1%
ない	131	33.9%
計	386	100.0%

問14-2 どのように観戦しましたか(複数回答)

競技場などで直接観戦	112	34.1%
テレビ放送などで観戦	206	62.8%
観たり聞いたりすることはない	9	2.7%
その他(子どもの試合)	1	0.3%
計	328	100.0%

問15-1 あなたの最近の健康状態について

大いに健康	33	8.5%
まあまあ健康	254	65.8%
あまり健康ではない	68	17.6%
健康でない	19	4.9%
分からない	10	2.6%
その他(歩けない、耳が聞こえない)	2	0.5%
計	386	100.0%

問15-2 健康づくりにスポーツ等は必要と思いますか

必要だ	366	94.8%
必要ない	16	4.1%
無回答	4	1.0%
計	386	100.0%

健康づくりにスポーツは必要
約95%

問15-3 必要だと答えた人は、その理由をお答えください(複数回答)

規則正しい生活ができる	58	15.0%
食事がおいしく摂れる	53	13.7%
健康な体になる	217	56.2%
医療費が節約できる	27	7.0%
禁酒、禁煙を考慮することができる	4	1.0%
美容のため	21	5.4%
運動不足の解消	219	56.7%
その他(心身のリフレッシュなど)	12	3.1%
計	611	158.3%

問15-4 必要ないと答えた人は、その理由をお答えください(複数回答)

規則正しい生活を既にしている	3	16.7%
今は健康な体なので	4	22.2%
嫌い、苦手、興味がない	4	22.2%
運動なんて必要ない	0	0.0%
する時間がない	5	27.8%
その他(運動を禁止されているなど)	2	11.1%
計	18	100.0%

問16-1 市では健康教室などに指導者を派遣しています

健康教室などに参加したことがある	42	10.9%
参加したことがない	343	88.9%
無回答	1	0.3%
計	386	100.0%

健康教室などに参加した
ことがない人
約9割

問16-2 問16-1で参加したことがある人にお尋ねします

満足している	22	52.4%
不満足	0	0.0%
内容をもっと工夫してほしい(無料、内容)	2	4.8%
継続してほしい	14	33.3%
その他(時間帯が合わない、現在は無理)	2	4.8%
無回答	2	4.8%
計	42	100.0%

問17. 子どもの体力づくりに何が必要と思いますか

学校体育の授業の充実	101	26.2%
スポーツ少年団活動への参加	43	11.1%
スポーツ教室への参加	30	7.8%
外あそび	149	38.6%
部活動への参加	48	12.4%
その他	10	2.6%
無回答	5	1.3%
計	386	100.0%

子どもの体力づくりに何が
必要か
・外あそび約4割
・学校体育の充実約26%

問18. スポーツを支える活動をご存知でしたか

知っていたし、実践している	24	6.2%
知っていたが、実践したことがない	88	22.8%
知らなかった	273	70.7%
無回答	1	0.3%
計	386	100.0%

問18-1 あなたの、今後のスポーツ活動のボランティア参加について

是非参加したい	12	3.1%
できれば参加したい	102	26.4%
あまり参加したいと思わない	136	35.2%
参加したいとは思わない	112	29.0%
その他(時間がない、病気、種類によるなど)	23	6.0%
無回答	1	0.3%
計	386	100.0%

問18-2 是非参加したい、できれば参加したいと答えた方にお尋ねします。

どのようなスポーツに関するボランティア活動をお好みですか。(複数回答)

地域のスポーツイベントの運営やお世話	75	56.4%
日常的な団体、クラブの運営や世話	20	15.0%
日常的なスポーツの指導	6	4.5%
日常的なスポーツの審判	1	0.8%
地域のスポーツイベントの審判	2	1.5%
日常的なスポーツ活動の管理の手伝い	19	14.3%
国、地方、県でのスポーツイベントの運営や世話	7	5.3%
国、地方、県でのスポーツイベントの審判	1	0.8%
その他(体に負担のないもの、協会として)	2	1.5%
計	133	100.0%

体育・運動やスポーツ等、生涯スポーツに関してご意見や要望がありましたら自由にお書きください。(自由記述:概ね原文のまま掲載)

<ひと>

- 希望する運動種目が見つからず、最近やっと広報で見つけ出かけましたが、三回程度で終了してしまいました。参加意欲がなくなりました。でもよく考えてみたら、運営する方も参加人数等を考えますよね。大田市の参加人口が少ないせいかしら?
これから私も健康保持のためにできるだけ参加したいと思います。(60歳代女性)
- 運動・スポーツは個人の趣味であるので、実施する人、しない人、参加する人、しない人がいるのは当然だと考えます。(40歳代女性)
- 学校では生徒数減少により、先生が少なくなり専門の指導者がなく、部活動が出来にくくなってきている。子どもたちはやりたいスポーツが出来なくなり、他の部活にしかたなく変わらざるをえなくなる。やりたいスポーツが部活動でなくてもできる環境が整うといいと思います。(40歳代女性)
- 続けなければいけないとか、適当に好きなことをやればいい。飽きたらやめればいいし、やりたくなければやらなくてもいいと思います。義務とか使命感に左右されるものではないと思います。(50歳代男性)
- 五年前から病気でスポーツをできる状態ではありません。(70歳代男性)
- 20代、30代は運動するところにはハッスルすることもできました。年代に合わせての運動になると、今の自分には歩くことかな?(50歳代女性)
- 運動には関心があります。身近に気軽にできる仲間とか機会があれば、入会したいと思います。なるべく続けるためには会費等が安ければいいと思います。(60歳代女性)
- 総合体育館にて個人で都合のつく時間に自分のねらいとする運動をさせていただき、それを指導して下さる方がありがたいです。(70歳代女性)
- 身体を動かすことは大切です。医療費をおさえることもできるし、人と人との輪が広がると思います。(60歳代女性)
- こんなアンケートまでとってスポーツ振興計画をたてるほど、大田市にスポーツをしたいと思っている人がいるのか。まずそこが疑問。(40歳代女性)
- 適度に体を動かすことは、心身共に健康な生活を過ごすことができたり、生活を楽しく潤いあるものにするために必要だと思います。(40歳代女性)
- スポーツは嫌いです。見ることもしません。時々親子でスポーツをしますが楽しいです。体力づくりはした方が良くと思います。スポーツが出来る、出来ないにかかわらず、普段知り合えない大人や子どもが親しく、楽しくなれたらよいと思います。(40歳代女性)
- 礼に始まり礼に終わるといのは昔のことで、現在では何か忘れられた感じがします。
(70歳代男性)
- 大田総合体育館を利用させてもらっていますが、みなさん素晴らしい人ばかりで、気持ちよくスポーツが出来ます。でもネットなどがあまり良くありませんが・・・。(50歳代女性)
- 老人の健康を重点に考えてほしい。一人暮らしの老人は多いはずなので何時までも健康で、寝たきりにならないように指導をお願いします。(70歳代女性)
- 競技によっては指導者が少なく、十分なレベルに達することが難しいものがあり残念だ。

また学校における先生の指導力不足感がします。子どもたちが学校で基本的なことで学んでおらず、このためレベルが年々低下してきているように感じます。

学校 ～ 本人の努力 ～ スポーツ教室

↑
基本的な指導

↑
補完

⇒ レベルアップ

という図式になります。(40歳代男性)

- 子どもと孫はバドミントンやボール投げなどしています。私は農業をしています。水田5反、畑1反位、耕作仕事のない人は歩け歩け運動もよいが、私には無駄に見える。満79歳になりますが、最近友人、仲間との交流の為にペタンクをはじめました。(70歳代男性)
- 小さいころからスポ少に入り頑張ってきた子どもたち。学業だけでなくスポーツとしても中学の部活動で、きちんとした指導者がいなければ子どもは伸びない。部活動も授業もひとつこと。もっと責任を持ってもらいたい。せつかくの成長期にある子どもの芽を摘まないでほしい。(40歳代女性)

<もの>

- グラウンドや施設・設備がなさすぎる。(20歳代男性)
- 大田市は、せつかくよい施設を作っても(現在あっても)、その後の管理、清掃、修理等を定期的に行わないので、新しい施設を作っても無駄だと思う。新しいことをはじめるより、今ある施設の整備、草刈り、清掃等を行い、まずはきちんと整備、管理することが肝心だ。民間へ委託するようなことがあっても、きちんと管理、整備はすべきだと思う。これもれば広場などいい例で、子どもを連れて行っても危なくて運動、遊ばせることもできない。(40歳代女性)
- 集団とするスポーツも大切であるが、ストレッチをしたり、マシンなど完備された施設があればぜひ利用したいです。(40歳代女性)
- 三瓶山を活かした活動を増やしてもらいたい。そのひとつとしてスキー場を再開してもらいたい。(40歳代男性)
- グラウンドゴルフの愛好者ですが、年々増加傾向にあって競技の頻度も増し、他の市町村では専用競技場もあるように聞いています。希望的な意見ですが、専用競技場の開設をよろしく願いいたします。(70歳代男性)
- 大田市には気軽にできるスポーツ活動等の情報が何か伝わらない何かがあるのではないか。また温泉プールなどの施設がなく、市民の皆さんがわざわざ出雲や美郷町の方に出かけていく方が多い。ついでに買い物をして帰るといふ具合なので、経済効果が大田市にとってはマイナスなのではないか。
このスポーツ、これだけの施設ではなく複合的にみんなが利用できる施設がほしい。今ある施設はいずれも古い建物や機械が多い。市民の皆さんが健康になることが医療費の減少や地域を活性化することになるのではないのでしょうか。かたちにとらわれない自由な発想や内容がほしい。行政ばかり頼るのではなく、みんなで考える、行動できることが何かできないものか。(50歳代男性)
- プロスポーツを観戦できる様々な設備がない。(野球、バレーボール、バスケットボール)
(50歳代男性)

- 鳥井運動公園の整備、更衣室・シャワー等の設備など、スポーツをする人が利用しやすい環境づくりが今大田市が取り組む最大の課題ではないでしょうか。今大田市におけるフットサル人口は増えています。他の市町村にはフットサル場など誰もが身近にスポーツに関わるこることが出来る環境が整っています。野球だけが特別扱いされるのではなく、もっと他のスポーツにも目を向けて欲しいものです。せっかく鳥井運動公園という場所があるのだから、多種多様なスポーツができるビック施設にしてください。(40歳代女性)
- 私は美郷町のプール。ユートピア川本のスイミングスクールや出雲のプール等に行っています。大田市の方も沢山行かれますが、大田市にも温水プールができることを望みます。五十猛にもありますが行ったことがありません。出雲に出かける人は買い物もついでに行かれる。経済効果的に見てもマイナスではないでしょうか。(70歳代女性)
- 体育館に冷房をつけてください。(40歳代女性)
- 鳥井の運動公園の活用をもっと企画してほしい。水泳施設を大田市に設置してほしい。(例えばマリントラソのような施設)(60歳代女性)
- サッカーが夜遅くまでできる場所がほしい。また、サッカーのゴールがある場所を増やしてほしい。(20歳代男性)
- 大田町栄町のテニスコートは4面であるが、これでは県レベルの大会ができない。もう2面あるいは4面増設していただきたい。また同コートは日影がなく、ベンチ小屋も風通しが悪い。(50歳代男性)
- 健康維持のため、適度な運動を続けて参加したいと思いますが、近隣に体育館等がないので難しい。水泳は健康に良いとのことですが、大田市外へ出かける人がほとんどです。大田市には是非施設を作っていただきたい。(70歳代女性)
- 大田市内にスポーツジムや温水プールなど、誰でも気軽に行ける施設の建設を望んでいる。設備が整っていればなお良い。(30歳代女性)
- 島根県の中央にありながらスポーツ施設が貧弱なため、大きな大会が(テニス・水泳)開催できず、何事とも中途半端な状態にあるような気がします。(60歳代女性)
- 温水プールなどの施設がほしい。(40歳代男性)
- 散歩をしたいと思いますが、膝痛や股関節痛があり思うように歩けません。近場にプールがあるとアクアウォーキングができていいなと思います。(60歳代女性)
- 大田市内に「室内プール」を建設していただきたいと思います。子供に習わせたいが遠方に出かけるしかなく困っています。年間を通してスポーツをしたいと思っているが、なかなかこれというのがないです。ヨガ教室に興味があります。(30歳代女性)
- 今は時間が無いので参加できませんが、近い将来時間があればスイミング、気功等をしてみたいと思っています。ぜひ年間使えるプールが大田市にあったらいいなと思いますが。(60歳代女性)
- 大田市のスポーツ施設は他の市町村に比較して少なすぎる。管理も悪い。(40歳代女性)
- 日常生活の中で、スポーツが良いことだとわかっているが、なかなか思うように実行できません。しかし、いざ実施したいとき、できる環境があればありがたいです。三瓶スキー場の閉鎖は非常に残念です。(50歳代女性)
- 様々な年代の方が集まるスポーツジム(室内プールもある)施設が是非あったらいいと思います。(20歳代女性)
- 大田市内に室内プールが出来たら出雲、川本や邑智に通わずにすむのに・・・と前々から思っていました。五十猛プールも老朽化していますし・・・。(30歳代女性)

- 子供が安心して遊べる公園が少ない。(30歳代女性)
- 日本ではあまりモータースポーツが盛んとは言えないが、立派なスポーツであり、特に底辺を広げることが非常に大事なことと考えます。カートコースやオフロードのコース。サーキット等の複合施設は広島や岡山まで足を伸ばさないといけません。県内にこのような複合施設があると良いと思うのですが。(30歳代男性)
- 公民館等に無料で使える筋トレマシーンを設置してもらいたい。(70歳代男性)
- スポーツ施設の充実が今大田市の一番取り組むことではないでしょうか。武道館の建設もしてほしいのですが。(40歳代女性)
- 一か所でもいいので、全国規模の大会が出来るグラウンドあるいは球場がほしい。するばかりではなく、観戦できることも考えて。(40歳代男性)
- 高齢者ですので、ウォーキングで体力、健康維持に努めていますが、三瓶川土堤を歩いたり、走ったりする人が多くなっています。山崎橋～大田橋(両岸)の土堤を歩行者専用道路にすれば、運動する人が増えると思います。若者も現在やっています。(ウォーカー・バンクス)(70歳代女性)
- 市外に出なくても良いようにプールを設置してほしい。無理でしょうね。(60歳代女性)
- 室内トレーニング施設が近くにあるといいなと、いつも思っています。(40歳代女性)
- フリーウェイトを充実させてほしい。仕事帰りでもいけるようなスポーツ施設を作ってほしいです。交流がたくさんできて地域活性につながるイベントをもっと増やしてほしいです。(20歳代女性)
- 子どもたちが楽しく動ける施設がほしい。(例：浜山公園などのようなアスレチック)(40歳代男性)
- 体操競技の常設施設を是非作ってほしい。(30歳代男性)
- 活動や施設ともども中途半端だと思う。他の市町村では施設の充実をし、小・中・高校で各競技のレベルアップをしているが大田市では活動及び施設が不十分のため、一流選手を見ることがないので各世代で市外等への大会に出ても良い結果が出ていない。もっとやるからには徹底的にやるべきだと思う。(40歳代男性)

<こと>

- 大田市内には施設はあっても、交通の便の悪さがあり、なかなか利用するにも利用できません。マイクロバス等の利用が出来るようになると良いと思います。また、近くの(他市町村)施設の利用も積極的に利用したら良いと思います。行政も積極的に進めてほしいと思います。(60歳代女性)
- 大田市民が、大田市街の公共交通機関を利用して、市外のプールに随分通っている人がいる。こういう姿を行政にかかわる方はどう見ているのか疑問である。(70歳代男性)
- 大田市の場合は施設整備より運営体制の整備が重要ではないか。施設があっても動かす仕組みがなければ、新しいものを作っても無駄になる。(30歳代男性)
- 総合型スポーツ教室というものがあるが、おそらく時間が合わないので参加できない。地域性のクラブで個人の都合を聞いてもらえるとは思わない。それによってわだかまりが出来るので参加したくない。(60歳代男性)
- 私自身の興味でフットサルとスケートボードをしています。正直なところ大田市には両方ともまともな環境が整備されていません。フットサルに関しては使えない体育館がほと

んどで、やりたくてもできない人がたくさんいます。総合体育館で大会等でもできればもっと競技人口は増えると思います。

スケートボードに関しては、はっきり言って大田市には何も期待していません。実際のところ私たちスケーターは自分たちでお金を出し合っって練習場を作ったり、大阪からプロの方にも来ていただきました。

公園で小学生にもスケートボードの楽しさを知ってもらうために、一緒に滑ったりしています。興味を持っている人はたくさんいますが、施設がない為に何時までたっても道路や駐車場で滑るしかありません。

出雲や江津、松江、益田、大東などにはそういった場所がちゃんと整備されています。今アメリカでは野球などより、人気のあるスポーツなのに大田市ではスポーツであることすら認められていません。若者たちがやりたいことが出来ないところに、若者たちが残るはずがありませんし、いるはずがありません。実際私たちも休日には市外にスケートボードや遊びに行くのが当たり前になっています。

スポーツ等について考えるならば、若者たちが何を求めているかもちゃんと聞いてほしいと思います。そうでなければ、こんなアンケートを取っても何の意味もないと思います。私たちの声を聞いてもらえる機会をあたえてもらえば、積極的に参加するし、できる限りの手伝い、ボランティアはするつもりです。

なにを言っても無駄だとは思いますが頑張ってください。(20歳代男性)

○外に出かけていくということは、素晴らしいことだと思います。(70代女性)

○運動は大切なことなので、学校とかでも屋外でやるようなスポーツをもっとできるように指導してほしい。(20歳代男性)

○子どものころからスポーツが好きになるような指導が基本となるのではないのでしょうか。(80歳代女性)

○農業に従事する者は、時間をとるスポーツは出席しにくい。スポーツというものは暇があり、金があり、好きなものがやればいい。(70歳代男性)

○ウォーキングやラジオ体操など地区ごとにみんなで参加できないのでしょうか。(40歳代男性)

○スポーツを新たに始めたい人への情報提供をしてほしい。行政サービスとして参加者募集をする窓口になってもらいたい。(40歳代男性)

○現在は親の介護とか農作業などと忙しいですが、近くであって、簡単に楽しみながら健康づくりであればやってみたいです。元気で毎日を過ごすのが一番です。(60歳代女性)

○少子化の為と思いますが、外で遊ぶ子どもたちが少ないのが心配です。スポーツを取り入れた、外で遊ぶ機会を作れたらよいと思います。あまりにもゲーム機等の発達で悪影響をもたらしている。(70歳代男性)

○脂肪を落とすための運動をしたいと思っていますが、身近なところで定期的に行えるスポーツ教室があるといいのですが。現在使われていない建物が各地区にあるので利用できないのでしょうか。年代別にあると参加しやすいと思います。(50歳代女性)

○町で2か所健康体操を実施していただき、主に中高年齢を対象にして参加者も増加してきています。予算も付けて戴き喜んでおります。しかし、各自治体(自治会)で、きめ細かく参加者を増やしていくには、さらに行政が積極的に応援してくださるよう希望します。(70歳代女性)

- 無限なのは時間と宇宙しかない。須臾の人生の中で、時間と場所を共有している人と自然に感謝し、心豊かに生きる（＝心豊かに人生を終わる）ことが必要。そのひとつの方法として生涯スポーツがある。（50歳代男性）
- ソフトバレーボールの普及、充実を希望。（50歳代男性）
- 体力維持のために、スポーツをすることはよいことだと思っていますが、日々の生活の中ですべきことが多くて、スポーツのために時間を割くことが出来ません。（50歳代女性）
- 農作業などで日常的（今の時期なら草刈り）に動いて汗をかいていると、改めて運動をする気になれない。しかし、かたよった筋肉の使い方、姿勢で腰痛、肩こりがある人は大勢いるのではないかと思う。健康に働ける様な企画と参加を促すことが大切だと思う。（50歳代男性）
- 大田市で開催されるスポーツイベントが少ないように思います。告知等が少ないように思います。（30歳代男性）
- 体を動かすことは大好きで、以前は地域、会社でもグループでスポーツ大会に参加させていただきました。楽しかった思い出です。しかし、今頃は人口も少なく参加もできません。イベントも少なくなったと思います。参加する余裕もなく（仕事に追われ）最近は何もしていません。定年も近くなり、何かスポーツでもと考えてはおりますが、近くに施設もありません。都会のようになんでも近くにあればよいのですが。（60歳代男性）
- スポーツイベント等の告知を目にする機会がほとんどない気がする。（40歳代男性）
- 結果をホームページ以外でも公表して下さい。（30歳代男性）
- 個人がやろうと思えば何処でも、何時でもスポーツは出来ると思う。けれども本格的にプロを目指したい。お金をもらえるほどになりたい。そう考えるとき大田市には施設も指導者もない。
一般的なスポーツだけではなくバレエやストリートダンス等あれば、より選択支が増えてよいのではないか。（20歳代女性）
- スポーツ等で体力を維持することにより、健康増進が計られ、結果として増大しつつある医療費の節減につながる。医療費の増大は行政の負担増になるので、スポーツにより健康を増進するスポーツ振興を望んでいる。（60歳代男性）
- 交通弱者でも参加できるようにしてほしい。（50歳代男性）
- 生涯スポーツは健康維持のために必要。（50歳代女性）
- スポーツ活動を盛んにしていくことは大変に良いことと思う。それには大田市の予算配分が必要だと思うが。はたして大田市にそんな力が。（70歳代男性）
- 高齢になっても運動やスポーツが出来る大田市であってほしい。（40歳代女性）
- 有線放送、CATVなどに未加入のために、スポーツ関連情報が入手できない。何らかの手段で情報を広め、スポーツ（社会教育）の普及に努めていただきたい。（50歳代男性）
- 一般市民が各種スポーツに興味を持つようなイベントや広報活動をしたら関心を持ってもらえるのではないのでしょうか。今一つ、県の中央部に位置しながら県大会が出来ないようなものを持っていても仕方がない。夢がもてない。（40歳代男性）
- スポーツに関心を持ってもらうために、スポーツ観戦ツアーなど企画したらどうでしょうか。（20歳代女性）
- 健康を保持するためには、禁煙をして年齢、体力に合った運動を行う。アルコールは適量に、規則正しい生活をする。そうすることが医療費の節減につながる。（70歳代男性）

- 市民運動サークルが出来ればいい、例えばバスケットなど。(20歳代女性)
- 子どもが参加できるスポーツクラブがたくさんあると良い。サッカーやバスケットの団体競技ではなく、陸上、バドミントン、卓球、アーチェリーなどの個人技であるならもっと宣伝を。小学校も人数が少なくスポ少も厳しい状態でかわいそう。(40歳代女性)
- 各地区の体育協会の育成と強化が広く大田市のスポーツ振興につながると考える。(40歳代男性)
- 就労環境の悪化(残業等)に伴い個人の時間がとりにくく、生涯学習やスポーツが良いこととわかっていても参加しにくくなっています。できれば土・日曜日以外の週一日「生涯学習日」を大田市として決め、市民参加を進め、積極的に取り入れた企業には評価点を与え、公表するとともに、市発注事業に有利になるようなシステムを構築したらいかがでしょうか。(50歳代男性)
- たとえばテニスを例えれば、人口の割に定期的にプレーされている愛好者がとても少ないように感じます。潜在的には、何かスポーツをされたいと思っている人は多い気がするので、テニス、卓球、バドミントンなど、上達には年季がかかるのですが、年を重ねてもできるスポーツなので、入門からある程度上達するまでのスポーツ教室を充実してほしいと思います。特に取っ掛かりとなるようなイベントをたくさん開いてほしい。(40歳代男性)
- 老後の健康維持のため、夫婦で総合体育館の悠々トレーニングに参加し、仲間、友人との交流があり、また、グラウンドゴルフ協会にも入会し、年間を通して楽しんでいます。誰にでもできるスポーツ活動をもっともっと広くPRしてください。(60歳代女性)
- 大田の体育館での活動が多いのではないかとおもいます。私は運転できないので仁摩の公民館などで出来る種目を作ってほしいと思います。(60歳代女性)
- 喜多方であったか、違うところであったか良く覚えていないのですが、「太極拳の町」として全市民が出来るだけ学校・職場などの単位で行い、市民の健康に寄与していると聞きました。そのおかげで市民の病気も減り、寝たきりの人々も少なくなったようです。市民が健康になると医療費も節約できる。病院も本当に悪い人たちだけが治療に専念でき、年寄りや、親が、子が将来にわたり心も身体も健全な市になると思うのですが。(60歳代女性)
- 運動、スポーツを定期的にしたいです。月～金は仕事。夕方や土日は子どもがいてなかなか本気で定期的、習慣的に本気で取り組むことが出来ない。「時間を作る」というレベルではなく・・・。(30歳代女性)
- あらゆる年齢層でも参加できるスポーツを一人がひとつ以上もてるような社会でありたい。それが単独であっても集団であっても良い。ただし、中学生までは地域差で集団スポーツが出来ていない小規模校が多いのでそこを手当てする仕組みを行政で考えてほしい。(50歳代男性)
- 仕事を持つ主婦は、仕事の後は買い物して、帰宅して、食事の用意と平日にスポーツの時間を作るのが大変難しい。私の場合は春から初夏にかけて夕食前(仕事を終えてすぐ)体育館で運動を1～1時間半します。(週2回程度)その日の夕食はレトルトカレーとか、マリポリスとかにして運動を優先します。この場合主人も一緒に運動しているので出来ますが、主婦だけの場合や子どもやお年寄りがいる場合は難しいでしょう。ちょっとだけ運動できるコツや、仕方、など女性は具体的に情報がほしいのではないのでしょうか。施設が良くなっても教室があっても主婦はいけません。(40歳代女性)

- 時間の都合がつけば健康のため、また地域の方々との交流を深め子どもから高齢者まで閉じこもりのないように楽しい場所が出来ればいいのではないのでしょうか。(60歳代女性)
- 施設は趣味、娯楽の範囲のことであるので、市のほかの事業との優先順位の問題であるような気がする。財政的に難しい問題です。(60歳代男性)
- 生涯スポーツのソフトバレーをやっています。県でも何度も優勝していますが、中国大会も自費で参加しなくてははいけませんし、スポレクの全国大会も一部だけ負担金をもらえますが大半が自費です。ソフトバレーを広めるのなら要請があれば指導もしますし、テストマッチもします。その分せめて県外に行く大きな大会に参加するための旅費、宿泊費等ほしいです。ご存知ないでしょうが、私は生涯スポーツのソフトバレーで中国大会でも優勝したチームの一人ですよ。そんなチームが大田にあるんです。(40歳代男性)
- 働く女性（おかあさん）向けの運動教室などを考えてほしい。(夜は家事、日中は仕事のためなかなか参加できないので、土・日を利用して) また、小学生までの子どもが出来るスポーツ教室を教えてください。(30歳代女性)
- 大田市の皆が明るく健康な人々となるように、スポーツ活動は今後とも継続してほしいと思います。(60歳代女性)
- 私は現在勤めているため、大好きなスポーツをすることが出来ません。もし時間に余裕があればしたいと思います。これからも是非続けてほしいと思います。(50歳代女性)
- 青春時代卓球が大好きな人生でした。もう一度ラケットを持ってラリーしてみたいと思います。これが今の夢です。(70歳代女性)
- 大田に帰ってからは、畑仕事があるので時間がなくなり、運動をしていない。(50歳代女性)

過去一年間に個人で運動を行った、あるいは体育・運動やスポーツ行事等への参加および頻度について

《この表の書き方手順》 I、まず「①運動した。参加した。」か、「②運動をしていない。参加していない。」かを選択し、番号を○印で囲んでください。 II、次に「①運動した。参加した。」という方は、下の1～43の種目一覧から選び、番号を○印で囲んでください。(複数回答可) III、次に下の種目(1～43)の中で選んだ種目の活動頻度を右欄(運動した。参加した。回数ア～カ)の該当箇所に○印してください。		①運動した。参加した。						合計
		ア、 (一 年間 に 数 回 程 度)	イ、 月 に 1 ～ 2 回 程 度	ウ、 週 に 一 回 程 度	エ、 週 に 二 回 程 度	オ、 週 に 三 回 程 度	カ、 ほ と ん ど 毎 日	
1	歩くこと(ウォーキング・散歩)	28	24	22	18	27	44	163
2	走ること(ジョギング、軽いランニング)	13	10	5	5	2	7	42
3	キャッチボールなど軽い運動	14	11	3	2	5	0	35
4	縄跳び	10	5	1	1	2	0	19
5	健康体操	13	9	3	6	10	13	54
6	アクアウォーキング(水中歩行)	6	4	5	0	2	0	17
7	グラウンドゴルフ	10	6	2	4	2	0	24
8	サイクリング	8	2	0	1	0	0	11
9	登山	21	4	0	0	0	1	26
10	水泳(プール)	18	1	4	0	0	0	23
11	ボウリング	17	3	0	0	0	0	20
12	ゴルフ	3	0	0	0	0	0	3
13	サッカー	4	1	2	1	1	0	9
14	インディアカ	0	0	0	0	0	0	0
15	フットサル	1	1	3	1	1	0	7
16	スキー、スノーボード	15	2	1	0	0	0	18
17	卓球	14	3	2	2	1	0	22
18	ウェイトリフティング	1	0	0	0	0	0	1
19	アーチェリー	1	0	0	0	0	0	1
20	テニス	7	5	2	3	0	0	17
21	バドミントン	8	3	0	4	0	0	15
22	釣り	23	7	2	0	0	0	32
23	エアロビクス	5	3	1	0	0	0	9
24	弓道	3	1	1	0	0	0	5
25	フォークダンス	3	2	1	0	0	0	6
26	ダンス(社交・ジャズ)	1	0	1	0	0	0	2
27	野球	15	1	4	2	0	1	23
28	ラグビー	2	0	0	0	0	0	2
29	海水浴	37	0	0	0	0	0	37
30	バレーボール	10	3	5	4	0	0	22
31	ソフトバレーボール	17	3	2	4	0	0	26
32	ビーチバレーボール	3	0	0	0	0	0	3
33	ゲートボール	1	3	1	1	0	0	6
34	ソフトボール	11	3	2	0	0	0	16
35	バスケットボール	3	2	0	0	1	0	6
36	空手、柔道、剣道	0	0	0	1	1	0	2
37	太極拳、合気道	0	1	2	0	0	0	3
38	気功	3	0	0	0	0	0	3
39	少林寺拳法	0	0	0	0	0	0	0
40	マラソン	3	2	0	0	0	0	5
41	陸上競技	6	1	0	0	0	2	9
42	スポーツ観戦	37	16	5	5	3	2	68
43	その他()	25	5	3	3	3	2	41
合計		420	147	85	68	61	72	853

健康保険年金課アンケート

1. 調査対象 : 平成23年7月1日現在市内在住者 1,080人 (20歳代から70歳代までの男女各90人)
2. 調査方法 : 1,080人を7ブロックで人口按分し、年代を6段階に分けて男女同数で均等抽出した。(各年代180人、男女各90人)
3. 調査方法 : 郵送による配布・回収
4. 調査期間 : 平成23年7月25日～平成23年8月5日
5. 調査回収数 内訳

年代別		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明	計	回収率
男		29	24	29	46	46	57	1	232	43.0%
女		29	43	50	58	57	63	1	301	55.7%
不明						1	9	1	11	2.0%
計		58	67	79	104	104	129	3	544	50.4%

〔3. 運動について〕

問20. あなたは普段運動をしていますか。

	年代	はい	割合	いいえ	以前はしていた	割合	未記入	有効回答
男	20	9	31.0%	15	4	65.5%	1	29
	30	8	33.3%	12	3	62.5%	1	24
	40	9	31.0%	16	4	69.0%		29
	50	17	37.0%	20	9	63.0%		46
	60	18	39.1%	21	7	60.9%		46
	70	22	38.6%	23	11	59.6%	1	57
	計	83	35.9%	107	38	62.8%	3	231
女	20	7	24.1%	18	4	75.9%		29
	30	8	18.6%	28	7	81.4%		43
	40	15	30.0%	21	14	70.0%		50
	50	18	31.0%	32	7	67.2%	1	58
	60	25	43.9%	24	7	54.4%	1	57
	70	26	41.3%	25	8	52.4%	4	63
	計	99	33.0%	148	47	65.0%	6	300
合計		182	34.3%	255	85	64.0%	9	531

・普段運動をしている人の割合は、全体で34.3%という結果であった。

・平成18年度のアンケート結果では、36.1%だったので、1.8%減少した。(前回の回収率55.5%)

問20-2. 行っている運動の内容

	年代	散歩、ウォーキング	体操等	筋力UP	水泳等	ゴルフ等	その他	未記入
男	20	2	3	5	1			1
	30	4	1	4	2			2
	40	4	3	2	2			2
	50	13	3	4	1			3
	60	11	3	3	4	3		2
	70	10	5	3	1	4		3
	計	44	18	21	11	7		13
女	20	4	2	3	2			2
	30	3	4	3				2
	40	4	7	2	2			5
	50	11	10	3	1			1
	60	14	15	6	4			3
	70	20	10	5	1	3		1
	計	56	48	22	10	3		14
合計		100	66	43	21	10	27	0

問20-3. 自分の運動についてどのように思いますか。

	年代	十分	不十分なのでよくしたい	不十分だがしかたない	未記入
男	20	3	5	1	
	30	4	3	1	
	40	1	8		
	50	4	11	2	
	60	9	9		
	70	7	6	9	
	計	28	42	13	0
女	20	1	5		
	30	2	3	3	
	40	5	8	2	
	50	3	10	5	
	60	10	10	4	
	70	11	10	5	
	計	32	46	19	0
合計		60	88	32	0

問20-4. 運動をするようになったきっかけは何ですか。

	年代	自分で	家族の勧め	友人の勧め	医師から言われ	昔からしている	その他	未記入
男	20	1	1			6	2	
	30	2	2	1	1	3	2	
	40	2		1	1	6		
	50	6	2		4	5	1	
	60	7	3	1	1	7	2	
	70	6		4	11	4	1	
	計	24	8	7	18	31	8	0
女	20	3	2		2		3	
	30	1	1	3		2	2	
	40	8		2	1	4	3	
	50	11	1	1	4	2	4	
	60	11		5	12	5	2	
	70	13		3	9	7	2	
	計	47	4	14	28	20	16	0
合計		71	12	21	46	51	24	0

問20-5. 現在も運動を続けている理由は何ですか。

	年代	運動が楽しい	家族友人とやっている	健康維持のため	体重を減らしたい	ストレス解消	生きがい	病気の治療や予防	近くに施設等あり	手軽にできるか	その他	未記入
男	20	5	1	2	1	4			1	4	2	
	30	4	1	3	6	4	2	3	2	1	1	
	40	4	1	5	7	3		3		1		
	50	3	2	11	8	9		8		8		
	60	6	3	15	8	6	4	6	1	8		
	70	4	4	12	2	5		12	1	4		
	計	26	12	48	32	31	6	32	5	26	3	0
女	20	3	3	3	6	2		1		2		
	30	4	3	5	4	7				1		
	40	7	5	8	6	7	2	2	1	1		
	50	3	4	15	10	10	1	4		5		
	60	7	8	19	8	9	2	10	5	6		
	70	5	7	20	10	8	1	11	3	9	1	
	計	29	30	70	44	43	6	28	9	24	1	0
合計		55	42	118	76	74	12	60	14	50	4	0

問20-6. 運動をする場所はどこですか。

	年代	学校のグラウンド・体育館	公共スポーツ施設	民間スポーツ施設	公民館	自宅	公園	その他	未記入
男	20	1	3			4	1	2	
	30	1	2	3		2	1	2	
	40	2	1	2		4		2	
	50	1	1	1		10	5	4	
	60	1	5	4	1	4	3	4	
	70	3	3	1	3	10		4	
	計	9	15	11	4	34	10	18	0
女	20	1	2			4		3	
	30	4			2	4	1		
	40	5	4	1	2	6		1	
	50	2	2	1	3	11	2	2	
	60	2	1		6	16	2	4	
	70	1	3	3	2	16	2	4	
	計	15	12	5	15	57	7	14	0
合計		24	27	16	19	91	17	32	0

問21. あなたが普段運動をしない又はやめた理由は何ですか。

	年代	仕事や家事が忙しい	機会や場所がない	仲間がいない	運動に関心がない	運動が嫌い	運動を教えてくれる人がいない	元気だから	病気である	何をしてもかわからない	その他	未記入
男	20	8	6	4	4		1	2		3	2	
	30	11	9	4	1	1				1	1	
	40	13	7	4	2	1	1		2	2		
	50	20	7	2	4	3		1	2	1	7	
	60	10	1	2	2	2	2	2	3	1	7	
	70	10	2	3	5	1	2	4	8	1	4	
	計	72	32	19	18	8	4	9	15	9	21	0
女	20	14	12	5	6	2				5	1	
	30	25	9	9	2	5	1		2	7	4	
	40	23	11	5	2	8		1	1	4	6	
	50	27	13	11	2	4	1	1	1	6		
	60	11	3	4	1	1	1		9	2	3	
	70	11	1	2	3	1			13		1	
	計	111	49	36	16	25	5	2	26	24	15	0
合計		183	81	55	34	33	9	11	41	33	36	0

問22. あなたが今後やってみたいと思う運動は何ですか。

	年代	ウォーキング	体操等	筋肉トレ	軽いジョギング等	グラウンドゴルフ等	登山、ハイキング等	競技スポーツ	その他	未記入
男	20	5	2	13	11		5	5		
	30	7	5	12	9		6	1	5	
	40	11	4	10	10	1	6	6	2	
	50	21	6	14	12	4	7	1	1	
	60	17	8	12	7	5	6	4	3	
	70	30	12	14	3	8	4	1	7	
	計	91	37	75	52	18	34	18	18	0
女	20	9	5	7	11		4	3	2	
	30	20	16	11	17		6	2		
	40	26	19	18	9	1	3	2	4	
	50	36	18	18	13	1	7		1	
	60	34	21	11	2	3	3		1	
	70	30	15	10	4	4			3	
	計	155	94	75	56	9	23	7	11	0
合計		246	131	150	108	27	57	25	29	0

問23. あなたが夜間運動するとしたらどの時間帯を選びますか。

	年代	19:00～	20:00～	21:00～	夜間はでない	その他	未記入
男	20	6	6	7	6	1	3
	30	8	10	2	4		
	40	10	8	7	2	1	1
	50	15	12	4	8	3	4
	60	21	3	1	13	3	5
	70	15	6	2	17	6	11
	計	75	45	23	50	14	24
女	20	9	9	2	6	2	1
	30	7	16	5	14		1
	40	11	20	5	9	3	2
	50	8	26	3	18		3
	60	16	8	22	2		9
	70	9	4	28	2		20
	計	60	83	65	51	5	36
合計		135	128	88	101	19	60

ブロック別意見交換会 （場所：市内7ブロック 日時：6/7～6/21）

〈スポーツ振興計画について〉

- ・ 前期計画を全く承知していなかった。

〈人口減少とスポーツ〉

- ・ 人口の減少、子どもの減少が、そのままスポーツ人口の減少へ。

〈現役世代とスポーツ〉

- ・ 現役世代は、スポーツ機会が少ない。
- ・ 続けることができたのは仲間の存在が大きいと思う。仲間づくりの方策がわからない。
- ・ 現役世代のスポーツ人口が少ない。職場対抗などもできなくなっている。
- ・ チームが組めなくなっても、個人競技や季節のスポーツなど、地域の特色を生かしたものを取り入れてはどうか。
- ・ 働き盛りの人に対する啓発をどうするか問題。たとえば、会社の長を啓発し、銀・ギン・gin が会社に出向くなどし、効果が出れば関心が深まっていくという好循環。
- ・ 行政からの企業への啓発活動や休憩中の運動の実施など、突っ込んだ指導を期待。
- ・ 今のはやりは自然志向であり、山ガール、海ガールなど三瓶山や釣りなど若い人にきつくないものが提供できないか。
- ・ 現役世代は育児、仕事など余裕がないと思う。
- ・ 企業の元気がなくなり、社会全体がスポーツ（厚生）など力を入れなくなった。
- ・ 青年団活動など、きっかけとなる組織がなくなった。
- ・ 個人主義が強くなったり、コミュニケーション能力が落ちているように思う。それがチームスポーツの不振につながっているのではないか。
- ・ 伝統的に水泳がよいのではないか。
- ・ スポーツ実施の効果的なPR（情報発信）が必要。

〈高齢者とスポーツ〉

- ・ 年齢に応じた、体力に応じたスポーツを探す。
- ・ 高齢者の声かけによる安否確認ではなく、巡回をしてでも近場で集まって体操の実施など、身近で続けることが大切。ただし会場の確保が課題。
- ・ 高齢者の移動手段の確保が必要。乗合での移動にも限界が出てくる。
- ・ 施設もなく、高齢化も進み、どのようなスポーツを実施して良いかと思う。地域や年齢によってすることやあり方が違っているし、体協の組織としての動きも目標も見えない。

〈健康とスポーツ〉

- ・ 体力テストなどして数値目標を立てるなど、効果が確認され実感できるものが必要。
- ・ 健康体操などの目的を、単に楽しいだけのスポーツとしてではなく、意味付けをして、積極的な開催が必要と考える。（体のメンテナンス、ストレス解消、体力づくりなど）
- ・ 会社がするような健康診断ではないが、スポーツと健康について浸透させ、運動することに意義付けをすることが必要か。
- ・ スポーツ振興というなら、救急外来が受け付けられない状況ではだめ。県大会などもそのため誘致できないと聞いている。
- ・ 健康志向のためのスポーツが増えている。大きな大会ではなく町ぐるみで進められる軽スポーツなど1～2種目程度に絞って推進してはどうか。
- ・ 楽しいことに加え、健康志向を意義づけることで継続性が出るのでは。
- ・ 体力測定など数値化して目標設定をすることでスポーツを続けることの意識を高める。

- ・ 屋内プールは医学的にもリハ効果にも良い。
- ・ 運動を子どもから大人、高齢者にアレンジしたりして実施。
- ・ 健康づくり、体力づくりなどに視点を置き、出かけていくことが必要。

〈地域とスポーツ〉

- ・ 施設の集中は、身近なスポーツ機会を提供できなくなり、各地区に分散したほうがよい。
- ・ 参加しやすく、持続性のあることがスポーツ振興。小さなコミュニティー単位での開催だと、続くのではないか。
- ・ 競技施設は中央集中で、身近なスポーツはブロックなど。
- ・ 具体的施策など、近年中央集権的に感じる。銀ギン gin など。

〈総合型地域スポーツクラブ〉

- ・ 銀ギン gin の会員はあまり増えてはいないが、一人で数教室参加するなど、延べ人数が増えた。
- ・ 健康で体力がつくと積極的になり意欲が出る。人が変われば町も変わるという好循環に。

〈スポーツ少年団〉

- ・ スポ少など、メンバーが集まらないところは、範囲を広げようと頑張っているが、行政も何か手助けを。

〈体協〉

- ・ 体協の立場として、運動会以外に集まらなくなった。大人もスポーツをしなくなった。
- ・ 現状は地区体協も運動会のみになり、スポーツ実施者は個人でウォーキングなどが主流になってきていると感じる。
- ・ 運動会なども惰性でやっているような印象がある。

〈学校関係〉

- ・ 小学校から中学校（又は高校）への連続性がなくなり、やめてしまう子が増えている。子どものスポーツ、特に高校スポーツに力を入れて市をイメージアップするのはいかがか。
- ・ 地域の指導者と学校の連携がほしい。

〈施設〉

- ・ 廃校のグラウンド活用、管理など
- ・ 施設は管理しなければすぐ使えなくなる。ボランティアなど人数減少による負担増あり。
- ・ 施設が鳥井、久手、一中の周りなど分散しているが、管理上でも集中していた方がよい。
- ・ グラウンドゴルフの専用施設がほしい。
- ・ 陸上の 400m トラックがないなど、大田市は施設的に良くない。
- ・ 長久から水源地までの川沿いの土手をジョギングコースとして再度整備してはどうか。
- ・ 県内で唯一スイミングスクールのない市。

〈スポーツ振興に向けた様々な工夫〉

- ・ 参加者を集めるのではなく、訪問してそこでやる、という考え方。
- ・ 年一回のイベントでは効果が上がらない。継続性をどう持たせるか。
- ・ 行政は主に指導者を育成することが必要。多くの指導者が身近にいることが普及に。
- ・ 気運の醸成のため、キャンペーンや巡回して体験させてみたりすると普及につながる。
- ・ 行政がやる気を見せれば盛り上がるし、みんな力を入れると思う。
- ・ 高齢化に伴い、医療費の抑制などの意味もある。スポーツ専門の課の創設。
- ・ スポーツの必要性は体育会系でなく、医師、市長など政治的立場の人が周知・説得する。
- ・ 継続した大会が開催されれば、参加するための練習が必要で、継続性が出てくる。

「スポーツ関係団体調査」 スポーツ少年団

1. 調査書提出団体

久手剣道、波根剣道、静間バレー、大田ミニバレー、朝波ジュニアバレー、久手バレー、長久バレー、仁摩バレー、温泉津バレー、仁摩野球、大田スポ小、さんベメッツ、久手野球、長久野球、静間スポ小、五十猛野球、久屋スポ小、高山スポ小、温泉津野球

(回収 19/23団体)

2. 貴団の主な活動事業

- 練習（毎週土・日あるいは週2回） ●奉仕活動（草刈り・カーブミラー洗浄）
- 夏のお楽しみ会、クリスマス会、お別れ会 ●保護者総会 ●公式大会の出場
- 多団体との練習試合 ●県内他団体との交流 ●教室
- スポーツを通じて体を鍛え、心を養い友達を増やすことを目的としている。
- 世代を超えての交流会 ●地域行事への参加（地元の祭り、グロなど伝統行事）

3. これまでスポーツ少年団を運営・活動していく中での課題（複数回答）

- ・メンバーがいない・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- ・技術指導をする指導者が不足している・・・・・・・・・・7
- ・活動費が少ない・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- ・その他・・（親と子供との意識・理解の違い）

（親同士のつながりが少なく、共働きのため活動に参加しにくい。）

4. 上記課題をふまえて工夫し、取り組んでいる事業

- 団員の募集ポスターの作成・配布・保護者からの口コミ勧誘
- メンバー不足・・・他団との情報交換（統合・合併）、他周辺団との合同練習、低学年の勧誘活動、女子児童の勧誘活動。
- 日本生命のスポーツ助成制度を活用。
- 指導者・・・現在は外部指導者。以前は保護者対応。指導者の育成が課題。後継者づくりにつとめたい。
- 6年生がスポ少卒団後、小学校に集まり、一緒に練習を行い、コミュニケーションを深めている。
- 年に1～2回 中学生バレー部の練習に参加させてもらっている。

5. 市では現在「大田市スポーツ振興計画（H19～23）」にそって生涯にわたるスポーツライフの実現に向けて取り組んでいる

(1) この計画について

- ・知っている・・・・・・・・・・4
 - ・知らなかった・・・・・・・・・・15
- どのような方法で知ったか。

- 体協等の会で ●仕事上 ●大田市ホームページ ●スポーツ指導者協議会で

(2) (1) で「知っている」と回答した団体で、この計画により取り組んだ、あるいは考えた企画や行事等（具体的に）

- 詳細の内容までは把握していないので、計画に沿ったような活動にはなっていない
- 各種指導者講習会への参加。

6. 子どもたちが今後、社会生活をしていくうえで体育・運動やスポーツはどのような役割があるか（複数回答）

- ・ 親子や家族間の交流 1 2
- ・ 青少年の健全育成 1 2
- ・ 高齢者の生きがいつくりや自分の健康つくり、体力増進 1 1
- ・ 地域のコミュニティーの形成（友達づくり） 1 1
- ・ その他（・ 団体生活、団体スポーツ、仲間づくり ・ チームスポーツを通じ、社会性、あいさつ、礼儀、忍耐力を育成する。）

7. これからのスポーツや運動について

※今後大田市のスポーツ行政に対しての要望事項（複数回答）

- ・ 身近に利用できる施設を整備する 1 0
- ・ スポーツイベントを数多く開催する 7
- ・ 施設の利用料金を安くする 7
- ・ 学校体育施設を開放し、整備を行う（統廃合による空施設） 7

8. スポーツ振興のために必要なこと ※スポーツ振興のための必要事項（複数回答）

- ・ 各種スポーツ行事、大会、教室が増える 1 0
- ・ 幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会が増える 8
- ・ 身近に利用できるスポーツ施設が増える 6

9. その他（自由な意見・要望事項）

- 少子化により、特に中学生での部活動の廃止が見られる。小学生の時から継続性が失われるので、社会体育面での行政のバックアップが必要。 隣の地区との合併。
- 団員の低年齢化が進み、厳しい状況下にある。（人力的に）試合をすることがすべではないが、子供たちのモチベーションが下がるのが心配。
- 行政側もある程度のスポーツ少年団の情報を蓄積しておきながら、団にアドバイス、情報提供していく必要がある。
- 総合体育館に冷暖房設置を。
- 校庭の芝生化の実現を。
- スクールバスの柔軟な利活用。
- 野球場のスコアボード、照明等の整備。

「スポーツ関係団体調査」 競技団体

1. 調査書提出団体

陸上競技協会、走ろう会、水泳連盟、サイクリング協会、スキークラブ、オリエンテーリングクラブ、フォークダンス連盟、レクリエーション協会、アーチェリー協会、弓友会、剣道連盟、柔道連盟、射撃クラブ、野球連盟、ソフトテニス連盟、ソフトボール協会、ゲートボール協会、バスケットボール協会、卓球連盟、バウンドテニス、ペタンク協会、ダイヤゾーンボール協会、スポンジテニスクラブ、ターゲットバードゴルフ協会、レスリングクラブ、バドミントン連盟

(回収 26/32 団体)

2. 平成 22年度における活動状況 (大会・教室・研修会等)

●大会開催・参加	●教室 (練習会)	●合同強化練習会	●合宿	●講習会
●講演会	●研修会	●大田市文化祭・クリスマスの集い		

3. それぞれの団体において、事業やイベントを開催するにあたって課題となること。(複数回答)

- ・団員の高齢化が進んでいる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 1
- ・活動費が少ない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 0
- ・身近に利用できる場所や施設がない・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ・その他：整備された競技場がない。コートの高齢化。会場使用料が高い。女性会員が少ない。
会員数の減少。参加チーム数が減少傾向にある。社会人が中心であり、仕事の関係で練習日、時間等において連携が取りにくい。

4. その課題について解決するために何を工夫すればよいか、お考えをお聞かせください。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●県中央の地域性を生かした、整備され、子どもたちがそこで競技したい、運動してみたいという夢が持てるような競技施設が大田市には必要。 ●審判員の高齢化、会員不足。世代間交流を通じた若手の育成。そのために広報や銀山テレビでスポーツの楽しさのPR活動。 ●市の予算の増額、体協からの助成金の増額。会費の値上げは厳しいし、大会参加費の大幅な値上げも困難。 ●子どもたちに競技の面白さを知らせたい。小学校への時間外活動の一つに加えて戴けるよう働きかけ。 |
|--|

5. 社会生活をしていくうえで体育・運動やスポーツはどのような役割があるか (複数回答)

- ・高齢者の生きがいつくりや自分の健康づくり、体力増進・・・・・・・・ 2 2
- ・世代間交流の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5
- ・余暇時間の有効利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3
- ・青少年の健全育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3
- ・その他：20代、30代の男女からは良く「ストレス解消」という言葉を耳にする。

6. 「大田市スポーツ振興計画 (H19~23)」にそって生涯にわたるスポーツライフの実現に向けて取り組み

(1) この計画について

- ・知っている。・・・・・・・・ 1 1
- ・知らなかった。・・・・・・・・ 1 5

どのような方法で知ったか

(・体育協会評議員会 ・放送や広報 ・体協総会 ・HP ・市職員)

(2) (1) で「知っている」という団体。この計画により、取り組んだ企画や行事等

- | | |
|---|------------------|
| ●教室の開催。(上期・下期) | ●大田市健康体力づくり初心者教室 |
| ●振興計画は知っている。具体的に何をしているのか、実態は何をしているのか全く見えてこない。 | |

7. これからのスポーツや運動について (複数回答)

- ・身近に利用できる施設を整備する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7
- ・学校体育施設を開放し、整備を行う (統廃合による空施設)・・・・ 1 1
- ・指導者を育成し、資質を向上させる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 0
- ・健康、スポーツに関する情報の提供と充実・・・・・・・・・・・・・・ 1 0

8. スポーツ振興のために必要なこと（複数回答）

- ・身近に利用できるスポーツ施設が増える・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- ・幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会が増える・・・・・・ 10
- ・スポーツやイベント、指導者や施設などスポーツに関する各種情報の提供が充実する
・・・・・・・・・・ 8

9. その他（自由意見・要望）

- 県央に位置しながら公的なスポーツ行事を催すスポーツ施設が少ない。（未改修）そのために他市町村で開催されている。見る機会はとても大切と思うので、施設を充実し、大田市が主会場となるような大会を誘致できるようにしてほしい。
- 施設の維持管理にもっとお金を使うべきだ。利用者任せになっている。
- 我々の団体では「技術の向上・体力づくり・健康づくり」と柱を立てているが、それが大きな大会をこの大田市で開催し、市外・県外からもチームが呼び、この大田市で宿泊してもらい、またお金を使ってもらい、そのことにより大田市のために貢献できないかと思っている。
- 子供たちが少なくなってきた。少子化も現実問題、今の子供たちの生活を見ると、学校から家に帰って外遊びもせず、スポーツもせずゲームやパソコンで遊んでいる子供たちが増えていくと感じる。健康や体力づくりにも影響が出てくると思う。その子供たちをどうすればよいか、どのようにすれば体を動かすことができるようになるかについては、まだ答えが出ていない。
- 若い人でスポーツをする人が少ない。小学校の時はスポーツ少年団等に入る子供は多いが、中学校・高校でスポーツクラブに入る子供が少ない。
- 指導者育成が必要。
- 横田町がホッケー全国大会で活躍している。町民あげての支援が見られる。大田市においても何か1つのスポーツに力を入れて、全国で活躍できるスポーツの振興が必要。
- 今年9月11日に総合体育館で大会を計画中。コートの不足分の補充に苦慮している。（参加範囲：県内全域・米子地区を予定）
- 民力の活用が今後求められると思う。地域で眠っている人たちの活用が近道。
- 種目によっては、指導者が常駐する施設がなければ、取り組めないものもあるので、施設設備にあわせて指導者の確保も必要だと考える。
- 使用する用具の頻度が多く金がかかる。さらにメンバーの練習の時間帯、曜日もそれぞれに分かれていて、体育館の使用料も少人数で結構負担になる。体育館の使用料を無料にしてもらうことが出来ないか。助成金もどんどん少なくなり無に等しい状況。それでスポーツ振興か？
- 人口減少、若手層人口の減少で競技人口が減少している。小学生の人口が減少する。それによって中学校での部活動の数も制限され、人気のある部活動のみが生き残る。
- 中学校での専門の指導者がいない。地域偏重の赴任体制があるのではないか。小学校からの継続性が断たれる。
- 社会人が毎日指導することは出来ない。たまに指導しても指導向上にはつながらない。
- 大田二中のグラウンド（陸上競技場について）・・ 100m、50m のスタートをしてゴールまで一回選手が見えなくなるのは、審判にとって非常に判定しにくい場面が出てくる。なんとか位置的に考慮してほしい。
- 陸上競技大会に小学生の参加が増えている。今の状態では県央の地で県大会すらできない状況。子供たちが夢を抱き、のびのびと競技する機会さえ奪われているような気がする。競技場の整備を是非してほしい。
- サイクリングは年齢、体力に合わせ無理なく行える有酸素運動であり、ルール、マナーを守り主に公道を走るスポーツで全く競技性はない。したがってアンケートの項目には適合しないものも少なからずある。
- 年中通して使用できるプール。幼児から高齢者が自由に泳げるようなプールが必要。（高齢者の人が大田市外の施設、美郷・川本・江津・多岐・出雲まで出かけている現状から）

「スポーツ関係団体調査」 地区体育協会

1. 調査書提出団体

大田、久利、川合、池田、志学、朝山、鳥井、静岡、水上、祖式、仁万、馬路、温泉津、福波
(回収 14/27 団体)

2. 平成 22 年度における貴団体の活動状況。(大会・教室・研修会等)

●町民運動会の開催 ●バレーボール大会の開催 ●ソフトバレーボール大会 ●ソフトテニス大会の開催 ●混成ソフトボール大会の開催 ●ソフトボール大会の開催 ●野球大会の開催 ●健康ウォークの開催 ●文化祭体力テストの開催 ●三瓶周辺野球大会の開催
●グラウンドゴルフ大会の開催 ●ゲートボール大会 ●ダイヤゾーンボール大会の開催
●石東駅伝への参加 ●町対抗野球大会への参加 ●朝山運動公園の整備活動 ●町づくりセンター事業への協力 ●相撲大会 ●卓球大会

3. それぞれの団体において、事業やイベントを開催するにあたっての課題。(複数回答)

- ・選手になるメンバーがいない・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- ・町民の高齢化が進んでいる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- ・住民のスポーツに対しての意識、理解が薄い・・・・・・ 9
- ・活動費が少ない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・身近に利用できる場所や施設がない ・用器具が不足 ・指導者が不足・・・各 1

4. その課題について解決するための工夫。

●助成金の継続 ●住民のスポーツに対する意識向上 ●若い世代のスポーツ離れを防ぐ
●学校、スポ少との連携 ●PRは行っているが・・・ ●地域住民の交流、連携の推進と情報発信
●高齢者でもできるスポーツ(種目)の普及 ●生涯スポーツへの取り組み、考え方の普及。●高齢者でも参加できるように競技を変更している(バレーボールをソフトバレーボール等に) ●町民体育大会のような町民を一度に集めるイベントではなく、自由に参加できるような教室にしたりすることも考えていかなければならない。 ●レクリエーション性を持ち合わせた、軽運動(ゲートボール・グラウンドゴルフなど)のようなメニューを積極的に実施することで、ある程度の参加率アップは見込めるように考える。

5. 社会生活をしていくうえで体育・運動やスポーツの役割。(複数回答)

- ・地域のコミュニティーの形成(友達づくり)・・・・・・・・・・ 15
- ・高齢者の生きがいつくり や 自分の健康づくり、体力増進・・・ 12
- ・世代間交流の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- ・地域の健康水準の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・親子や家族間の交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ・青少年の健全育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・余暇時間の有効利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・スポーツ施設の有効利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

6. 市では現在「大田市スポーツ振興計画(H19~23)」にそって生涯にわたるスポーツライフの実現に向けて取り組んでいます。

(1) この計画について

- ・知っている・・・・・・・・・・ 5
- ・知らなかった・・・・・・・・・・ 9

どのような方法で知ったか。

(・仕事柄 ・冊子をみた・体協の会議・大田市のホームページ)

(2) (1) で「知っている」の団体で取り組んだ企画や行事等。(具体的に)

- 取り組みは行っていないが、スポーツ施設等について話し合いをしている。(学校施設の開放・地域と連携した活動) ●世代間交流として、小中高と高齢者の体力づくりグラウンドゴルフ大会

7. これからのスポーツや運動について (今後大田市のスポーツ行政に対しての要望：複数回答)

- ・学校体育施設を開放し、整備を行う(統廃合による空施設)・・・9
- ・健康、スポーツに関する情報の提供と充実・・・9
- ・指導者を育成し、資質を向上させる・・・7
- ・身近に利用できる施設を整備する・・・7
- ・スポーツイベントを数多く開催する・・・6
- ・施設の利用料金を安くする・・・6
- ・スポーツ教室を充実させる・・・5
- ・健康、体力相談等メディカル体制を整備する・・・3
- ・施設の利用手続きなどを簡単にする・・・3
- ・施設の利用時間を拡大する・・・3
- ・スポーツを通じて友好都市などと交流を深める・・・2
- ・スポーツボランティアを整備し、支援する・・・2
- ・公共スポーツ施設へ広告看板を出したりする・・・1

8. スポーツ振興のために必要なこと (スポーツ振興のために必要なこと：複数回答)

- ・身近に利用できるスポーツ施設が増える・・・7
- ・健康や体力づくりの体制が充実する・・・6
- ・市町村の体育協会の活動が活発になる・・・5
- ・幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会が増える・・・5
- ・学校における運動部活が活発になる・・・4
- ・全国大会などで活躍する選手が育つ・・・3
- ・各種スポーツ行事、大会、教室が増える・・・2
- ・総合型地域スポーツクラブの活動が盛んになる・・・2
- ・スポーツやイベントや指導者、施設などスポーツに関する各種情報の提供が充実する・・・2
- ・スポーツボランティアなどの運営サポートの体制が整備される・・・2
- ・各種スポーツ施設が簡単に予約できる・・・1

9. その他(ご自由にご意見・ご要望をお書きください。)

●各団体への助成金については、継続してもらいたい。 ●志学協議会は地域の皆さんの健康維持及び交流の場として活動している。高齢化により参加人数の減少はあるが、工夫しながらこれからも活動している。 ●スポーツ振興に予算を付けてほしい。 ●毎年開催している町民体育大会について中止を望む声を多々耳にするが、代議員会ではそのような意見は出ない。本当に町の方々が見たいイベントなのか悩んでしまう。 ●町民が自由に利用できる体育館施設がほしい。 ●運動場について整備が追い付かず、利用できる期間がほとんどない。また進入路の整備が望まれる。 ●高齢者のスポーツ離れがある。手軽な健康づくりスポーツから始める必要がある。総合型地域スポーツクラブが必要な時期に来ているのではないか。 ●「スポーツ振興計画」の内容は大田市の体育事業に一切関与していない当体育協会からかけ離れた内容で、アンケートのしようのない内容だったので送りません。

「スポーツ関係団体調査」 体育指導委員（現スポーツ推進委員）

1. 体育指導委員としての活動状況 (回収者 21/27人)

(1) 平成 22 年度における主な活動 (活動回数・時間・内容)

① 体育指導委員としてのスポーツ教室・イベント・研修会等

- 県体育指導委員研修会 ● 中国地区体育指導委員会研修会 ● 県スポーツ指導者セミナー
- 健康運動実践指導者研修会 ● 大田市体協会議、研修会 ● ナイターフェスティバル
- 大田市健康体力づくり市民大会運営で参加 ● スポレク広場 ● スポーツ教室
- 銀ギン gin 総合型地域スポーツクラブの指導 など

② 上記以外の不定期な行事等における依頼活動 (例：地区体育祭)

- 各婦人会、老人クラブ等からの依頼により、健康体操等の指導 ● ウォーキング大会のウォームアップ指導
- 体育協会主催 3B 体操 (一般対象：親子対象) ● 地区の文化祭、発表等に舞台出演
- 学校 P T A 活動のレク指導 ● 小学校クラブ活動 ● 子育て支援活動 ● 老人健康体操
- 3 B 体操 など

2. 「大田市スポーツ振興計画 (H19～23)」にそって生涯にわたるスポーツライフの実現に向けての取り組み

(1) この計画について

- ・ 知っている。 ・ ・ ・ ・ ・ 1 2 ・ 知らなかった。 ・ ・ ・ ・ ・ 8

どのような方法で知ったか

- (・ 体育指導委員の会議の時 ・ 銀ギン gin の活動を通して ・ パンフレット ・ 広報 (回覧板))

(2) (1) で「知っている」という方の取り組んだあるいは考えた企画や行事等 (具体的に)

- 総合型地域スポーツクラブの設立、運営。自立活動中 ● 地域公民館単位のスポーツ教室 ● 人は待っていても来ない。こちらから積極的に声をかけて出かけるようにしている。そのために、自分たちの勉強も大切であると痛感している。 ● 文化祭において、住民にチラシを配布し、ニュースポーツ (スナッグゴルフ) の指導とミニ大会を企画し、開催した。参加者は小学生親子。一般約 2 5 名が集まり、地域のイベントとして交流を深めた。 ● H22 年度から小単位地区からす少しずつ始めてひろめていき、ディサービス、障害者の方対象に教室化し定着しつつある。

3. 体育指導委員として活動中での課題 (複数回答)

- ・ 体育指導委員の存在が市民に知られていない ・ ・ ・ ・ ・ 1 5
- ・ 住民のスポーツ・体育に対する意識が薄い ・ ・ ・ ・ ・ 1 4
- ・ 活動費が少ない ・ ・ ・ ・ ・ 7
- ・ その他 ● 市民からのニーズがない ● 体育指導委員として活動目的の整理 ● 自分の体力の衰え

4. スポーツ振興のために必要なこと 上記課題を踏まえ、スポーツ振興のための工夫・具現化の考え。

- 働く人の勤務時間内における健康維持増進のための行動 ● 幼稚園での運動強化。(遊びを主に)
- 子供～遊びを通してコミュニケーションやスポーツの楽しさを伝え、高齢者にはお医者さんの往診のような、相談事業に合わせ「出前スポーツ教室」など、市内あらゆる所へ出かけて行き健康づくりに努める。 ● 各種目の普及活動が不足。アピール不足 ● どんな問い合わせにも丁寧に対応できる窓口体制 ● 現在実施されている教室、イベント等は高齢者向けが多い。スポフェスの内容も子供や親世代 (20～40 代) のライフスタイルにあったスケジュールになっていない。一つの場所で同時に子や親が活動がそれぞれできる、何時でもできるという充実した施設とそこに常時スタッフがいる安心感が必要だと思う ● 「市のスポーツ」を設けて、ブロック対抗競技会の開催。あるいは対外的に対抗できる競技種目の支援 ● ソフト面の改善が大事に思う。積極的に「生涯にわたる豊かな生活。豊かなスポーツライフ」を求めていく姿勢づくりをどのように意識改革していくかが体育指導委員の使命であると考え ● 指導者の育成。若手育成。(スポーツにのぼせる人の育成)
- スポーツにけがは付きもの。(安全は重視、事故防止には努力してはいるものの)、緊急時の対応 (救急病院) の配慮がほしい。 など

5. 社会生活をしていくうえで体育・運動やスポーツはどのような役割があるか（複数回答）

- ・高齢者の生きがいつくり や 自分の健康づくり、体力増進・・・・・・・・・・ 19
- ・地域の健康水準の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- ・親子や家族間の交流 ・地域のコミュニティーの形成（友達づくり）・・・ 各 12
- ・その他●予防医学として。医療費の軽減。（個人ではなく）財政的に ●スポーツは福祉である。福祉の向上は地域の活性化につながる ●スポーツ推進が立派なまちづくりとなる ●健康な体から健全な精神が生まれる ●現役世代が意欲的に働くために、体だけでなく心を守る

6. これからのスポーツや運動について ※今後大田市のスポーツ行政に対して要望事項（複数回答）

- ・健康、スポーツに関する情報の提供と充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・身近に利用できる施設を整備する・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ・指導者を育成し、資質を向上させる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- ・学校体育施設を開放し、整備を行う（統廃合による空施設）・・・・・・ 10
- ・その他 ●市民一人一人の健康は多様な価値観として表われ、大田市の力と繁栄に寄与する観点から執政計画の根本的な考え方(理念)としてライフスポーツの取り組みに予算を増すべき ●若くて、フットワークの良い指導者の養成が急務 ●主催者側の自己満足にならないようにする

7. その他（自由意見・要望）

- 出雲地区では夏休み前に子供たちと親さんを集めて体育館いっぱい動いて、良い触れ合いを持った機会があった。学校等にも声かけが必要。
- よく「ボランティアで。」といわれる。大切な体を預かって指導するには、それなりの多額な資本をかけて勉強しつつあるということも承知してほしい。
- 子供に関して・・・年間を通したスポーツ教室の充実を図る。特に水泳の短期教室は定員をオーバーし、通いたい子どもが行けずに市外へ行く現状がある。通う時間が多くかかるため、子供同士で遊ぶ時間が減っている。また子供だけではなく、大人の健康増進にも水泳、水中運動が手軽にできる環境は必要。（マリンタラソや邑智のユートピアスタイルのもの）
- スポーツ少年団では、練習時間が遅い、長すぎるという理由で入団をためらっていることをよく耳にする。まずは子供にとっては規則正しい生活、とくに就寝時間や夕食時間を確保できるようにしないと、健康・学習面にも影響がでて、親の支援も難しくなるのではないか。
- 「大田市のスポーツ、健康」をひとつ企業化し、指導者も兼業ではない人材を増やしてはどうか。個人的に指導にたずさわっている者としては、現在の状況は補償も何もなく運動指導だけでは生活が成り立たない。これでは新しい人材は入らない。高齢化してしまう。
- ライフスポーツを定着させるには、イベントを適度に行い、参加の習慣化を図る。
- 市民が共通して楽しめる競技を「市技」として設定し、ブロック単位の競い合いをさせることにより、意欲を昂揚するように仕向ける。そこから日常的に運動を行おうというプロセスが生まれてくる。
- スポーツ環境の整備（スポーツ・・・競技スポーツより、身近な軽スポーツや遊び）誰でも手軽にスポーツに親しむことができる（ただし、継続して）場が身近にあってほしい。その受け皿となるのが総合型スポーツクラブ。まずは仁摩・温泉津にも。将来的には中学校区に一つ設立。
- 2～3種目のその町、その場、その地域の皆さんが楽しく遊べるクラブがあれば最高。そこで地域の皆さんと一緒にあって、色々と阻害している問題の解決のために相談役となって活躍してほしいのが体育指導委員ではないか。
- 体育施設のPRをしっかりとすべきと思う。
- 屋外で遊ぶ子供たちの姿を見たいと思う。
- 日本体育協会と日本オリンピック委員会（JOC）が2011年に創立100周年を迎え記念事業の一つとして山口で「子供の発達段階に応じた体力向上プログラム」etc講演会があった。幼児の頃からの運動習慣が成人になってからの機能を支配する重要性を強調された。大田でもこういう講演会があるといいと思った。
- イベントも大事であるが長く続けられる指導が大切だと思う。
- ケーブルテレビでの体育指導委員の活動の放映。
- 「スポーツ振興」というと、自分はスポーツには無縁だからと、他人事、遠いところの話と思っている市民が多いのではないか。自分の「心と体」と向き合う時間をつくることを、教育委員会ではなく、健康保険年金課、子育て支援課、社会福祉課など連携して、窓口一つで「健康日本一」の大田市を目指す。

「スポーツ関係団体調査」 大田市内 26 小中学校

学校関係体育団体との連携

- スポ少、スポーツクラブ、競技団体との連携が不十分。
 - ・ 学校と諸団体との関わりをお互いがどうしているのか、どうしたいのかということが明確化されていない。児童、生徒の健康や生活についての情報交換をする場が是非必要。
 - ・ 例えば土曜日、日曜日の過度な活動が正常な学校教育に支障をきたしている。
 - ・ 今後継続的な連携のためには、市全体のシステムづくりが必要である。
 - ・ 指導の在り方が課題。練習日数・練習時間・指導者のマナー（言葉使いなど）
- 各種競技会の参加呼びかけは、無理のない日程を調整すべき。競技団体のメンバーよりも各校体育主任が役員が多くを占める大会運営は考えるべきである。大田市全体で取り組むのであれば、各団体が見通しを持って話し合い、実行に移すべき。

児童・生徒の体力・運動能力の向上

- 「大田市スポーツ振興計画」に書かれていることは、日頃から学校体育で努力している。基本は学校体育の充実。一人ひとりの児童・生徒が運動する喜びや楽しさを実感することが、生涯にわたって運動に親しむことにつながっていくと考える。
- そのためには、教職員が指導力の向上を図ること、地域や家庭と連携をはかって運動に親しむ児童・生徒を育てていくこと、指導者の育成を図ることが重要。
- 現代の子ども像・・・「運動量の低下」「基本的な動作の未取得」といった問題がクローズアップされている。これをどう取り組むかといった大田市共通の課題として取り組む項目をピックアップし示唆する。
- 学校現場でもスポ少でも専門的な指導者が不足。人材バンク制度の見直し。

運動部活動の活性化

- 競技団体や個人に協力を学校側から指導依頼したが、指導時間の問題・安全の問題や生徒のニーズにあっていないなどの理由により継続できなかった。今後連携を図っていくためには、大田市全体でシステムづくりについて考えていく必要がある。
- 希望する部活動が学校にない（特に集団的スポーツ）。学校によっては校区外の学校へ転校する生徒が見られる。しかしスポーツは集団競技ばかりではない。様々なスポーツの基本となる陸上競技あるいは個人競技もたくさんあるそれらが疎かにされてはいないか。

地域と連携した児童・生徒のスポーツ活動の推進

- 専門的な指導者の確保、活動場所・用器具の保証、安全・救急体制の確立など課題は山積みしている。限られた環境の中で活性化を図るならば、やはりどの種目もというわけにはいかないと考える。市としての重点化や市独自の拠点校。拠点地域の指定などポイントを絞った施策を考えていく必要がある。

施設設備

- 学校体育は計画的になされていると思うが、生涯スポーツの基盤となる施設が大田市の場合、他の市町村と比べて整備が遅れていると思う。（未来ある子供たちがあこがれ、スポーツをする環境にない。例：使い勝手の良い運動公園。室内温水プール等）

スポーツ振興全体を通して

- 「市スポーツ振興計画」は、もっと積極的に周知徹底を図ることが必要である。

スポーツ関係団体意見交換会

日 時：7月2日（土）
場 所：市民会館中ホール
出席者：65人

1. 実施内容

スポーツを取り巻く課題と解決の手立てについて、体育指導委員、体協加盟スポーツ団体、地区体協、スポーツ少年団、銀ギン gin スポーツクラブの代表の方を集め、6班に分かれてワークショップを実施し、発表。

2. 発表内容

【1班】課題	課題の内容	解決の手立て
指 導 者	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の時間が足りない ・人が少ないので、経費が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の連携 ・市外からも指導者を迎える ・待遇を改善する ・学校の先生を取り入れる
イ ベ ント	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、人口減少により参加が少ない ・土日に行事が重なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一流に触れる機会の提供
競 技 人 口	<ul style="list-style-type: none"> ・人が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部でも良い施設がない 400mトラック、プールなど： 周辺部は学校施設がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある施設を改善する ・廃校の施設の有効利用 ・鳥井運動公園の有効利用
【2班】課題	課題の内容	解決の手立て
高齢化・人口減	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減、高齢化などで参加者減 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の一人ひとりに声掛け
ス ポー ツ 振 興	<ul style="list-style-type: none"> ・どう市民に広めていくか ・スポーツ活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵に描いた餅にならないようお願いしたい。
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ、水泳の施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技施設の全体的な見直しを ・必要用具のアンケート実施
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・スポ少など大会の送迎がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎バスや生活バスの活用ができないか
【3班】課題	課題の内容	解決の手立て
高 齢 化	<ul style="list-style-type: none"> ・競技人口の高齢化 ・移動方法の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設までのバス移動 ・地区の拠点に指導者を迎える
指 導 者 不 足	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者認定をして広報する
費 用	<ul style="list-style-type: none"> ・用具が購入できない ・活動が制限される 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保などのためにも、行政内に専門部署を設置
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・プール ・ウォーキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールの建設 ・施設周りに駐車場が少ない
意 識	<ul style="list-style-type: none"> ・年代が高くなってからではなく、若いころからのスポーツをする意識を醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃からスポーツ教室に行くなど、小さいころからスポーツに親しむ。
少 子 化	<ul style="list-style-type: none"> ・団体スポーツができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ごとのスポ少などでなく、クラブチームにして各地区から集める

【4班】課題	課題の内容	解決の手立て
人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化 ・ 高齢者に合った種目 ・ 保護者のスポーツ経験不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が運動することで、スポーツ習慣が出てくる。
指導者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不足している ・ 高齢化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保障の充実（金銭的にも） ・ 子どもに対しては、他種目の体験
地域と学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係不足 ・ ガキ大将がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得の行政からの補助
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内練習場（ドームなど） ・ 鳥井運動上のトイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大田は県央で立地条件が良いのに、市が悪いので施設が中途半端
【5班】課題	課題の内容	解決の手立て
参加者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大田市にスポーツ課を設立（振興） ・ 民間には限界があるので、行政の働きかけ、行政の推進が必要 ・ スポーツ団体同士の横の連携をする ・ 自治会対抗など競技の結果で、大田市大会出場（市長杯）など ・ ファミリーで参加できる大会開催 ・ 継続性を持たせるように・・・ ・ 情報の出し方に工夫を
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今ある施設をもっと活用できるように・・・ 	
【6班】課題	課題の内容	解決の手立て
経費	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ教室の受講料助成 ・ 資格取得の補助 	
人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少 ・ スポーツ人口の減少 ・ 指導者の世代交代 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報として銀テレなどでスポーツ告知をする ・ 施設の改善、利用料軽減、大きな大会の開催
学校等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園など、歩育の実施を ・ 学校の部活種目や指導者の確保
民間		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内に残ってくれる指導者の確保
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の確保 	
その他		
○いろいろ話ができ良い機会だった		
○プールの設置を要望		
○閉鎖したスキー場だが、せめて子どもたちが利用できるような環境に		
○一中の体育館改修にあたって、中途半端でなく良い施設を		

「大田市スポーツ推進計画（後期計画）」策定にかかる中間報告会

日時：平成24年1月22日（日）14:00～

場所：大田市民会館 第1会議室

参加者：約50人

【主な意見（抜粋・要約）】

- ・総合型地域スポーツクラブの必要性が高まってくると考える。いろいろ中心になる組織があると思うが、銀・ギン・gin スポーツクラブの場合は体協を中心に立ち上がった。
- ・スポーツを推進していくには、出前形式など必要になってくると思うが、スポーツ課を作って各地を回るなど出来ればよい。
- ・子どものスポーツ、小学校から中学校への連続性などのための教員配置など希望。
- ・三瓶クロスカントリー大会の活用により、横田のホッケーのように大田のマラソンなど、市を代表するスポーツとしてはどうか。
- ・健康体力づくり市民大会などの成果等を見ても種目が地域での広がりには欠けていると思う。助成金を増やすとか重点配分するなどして、市内全域に1種目を広げることと考えてはどうか。
- ・一中周辺をスポーツゾーンとして整備していく方針であれば、県央の地であることを念頭に整備してほしい。大会を2日間で開催するなどして経済効果も期待できる。
- ・鳥井の運動公園を中心としたスポーツゾーンの計画がなされていたが実現できなかった。今後希望の持てる施設整備をお願いする。
- ・スポレクから20年経過しており、古い施設から順に施設、設備の更新をするなどある程度考えて実施してほしい。
- ・アンケート結果なども見て、室内プールの希望も多い。五十猛小のプールでは競技スポーツとしても頑張っているが、ライバルがいなかったり施設が悪かったりして県外に出ていく者もいる。水泳は現在生涯スポーツとしても重要視されており、ニーズが高いので室内プール設置を考えてほしい。
- ・スポーツをしなくなる原因、二極化の原因は、小さい時のスポーツ体験で決まると考える。スポ少などのルールややり方が小さい子どもに負担になる。それより遊ぶ機会が不足しているので、8歳くらいまではスポ少などに入らず、楽しく遊ぶことを進める方が良いと考える。8歳くらいまでは遊びを中心とした施策を別枠で推進してほしい。また、そのようなことを理解したうえで指導者の拡充が必要と考える。
- ・これまでの意見を踏まえ、スポーツ教室などで参加料を徴収することを考え、また指導する側もお金をいただくべきという考え方にシフトしていくことが必要と思う。このような意識改革が必要だということも計画に入れていくことを考えてはどうか。

体 育 施 設 一 覧 表

(平成23年度末現在)

○付き No は指定管理施設

No	施設名	所在地	備 考
①	市 民 球 場	大田町大田口 719	公認 2 種、両翼 91.5m、中央 115.8m
②	市 民 庭 球 場	大田町大田口 727	コート 4 面、面積 2,860 m ² 照明取付、平成元年度
③	市 民 弓 道 場	大田町大田口 650	射場 149.04 m ² 、的場 36.18 m ²
④	市 民 公 園 プ ール	大田町大田口 716	公認 25m×17m、8コース
5	大 田 市 民 第 2 球 場	久手町刺鹿 747-4	右翼 92m、左翼 101m、中央 115m
⑥	大 田 総 合 体 育 館	大田町大田口 1451	競技場 35m×45m、柔剣道場、卓球場 トレーニングルーム。ミーティングルーム
7	久 手 テ ニ ス コ ー ト	久手町刺鹿 2599	(久手小隣接)
8	三瓶高原クロスカントリーコース	三瓶町小屋原 1911-1	3km、2km、1km コース
9	三 瓶 ス ポ ー ツ 広 場	三瓶町池田 3354	300m 及び 400m コース
10	三瓶オリエンテーリングコース	北の原、西の原	
⑪	大 田 運 動 公 園	鳥井町鳥井 1284	多目的広場、野球広場
12	大 田 自 転 車 競 技 場	久手町波根西 1757	
13	温 泉 津 総 合 運 動 場	温泉津町温泉津イ 122-5	
14	温 泉 津 総 合 体 育 館	温泉津町温泉津イ 207	
15	仁 摩 多 目 的 広 場	仁摩町天河内 975	仁摩健康公園内
16	仁 摩 テ ニ ス コ ー ト	仁摩町仁万	仁摩健康公園内
17	ターゲッパードゴルフ場	仁摩町仁万	仁摩健康公園内
18	宅 野 地 区 運 動 場	仁摩町宅野 79	
19	大 国 地 区 運 動 場	仁摩町大国 1269	
20	馬 路 地 区 運 動 場	仁摩町馬路 836-1	ゲートボール場 2 面 (照明設備あり)
21	馬 路 地 区 体 育 館	仁摩町馬路 836-1	
22	高 山 テ ニ ス コ ー ト	祖式町 586	旧祖式小学校敷地
23	五 十 猛 テ ニ ス コ ー ト	五十猛町 1481-2	五十猛まちづくりセンター隣接
24	波 根 テ ニ ス コ ー ト	波根町 1753-2	波根まちづくりセンター隣接
25	二 中 陸 上 競 技 場	久手町刺鹿 522-1	日本陸連 4 種公認 300mトラック、6 コース

その他関連施設

No	施設名	所在地	備 考
1	大屋ふれあいセンター	大屋町大国 2903-1	運動場
2	伝 統 芸 能 伝 承 館	仁摩町宅野 281	運動場
3	文 化 振 興 会 館	仁摩町大国 1246	運動場
4	農村環境改善センター	仁摩町仁万 540-1	運動場
5	櫛島公園キャンプ場	温泉津町温泉津	キャンプ場、ハイキングコース
6	湯 の 原 公 園	温泉津町上村 436-2	ゲートボール場、テニスコート(両施設照明設備あり)

関係機関及び民営等体育施設

国立三瓶青少年交流の家体育施設、三瓶山北の原キャンプ場、三瓶ヘルシートレイリングコース (サイクリング、ハイキング)、三瓶山ハイキングコース、バッティングセンター、ゴルフセンター、朝山町運動公園 等々

大田市スポーツ少年団の状況

【単位：人】

年 度	種 目	野 球	バレーボール	剣 道	サッカー	ミニバスケット	複 合	合 計
平成 ⑱ 年度	団数	12	6	4	1	1	1	25
	団員	248	99	54	7	15	40	463
	指導者	64	20	15	4	2	7	112
	上記の内 認定員	42	13	9	1	1	1	67
平成 ⑲ 年度	団数	13	7	4	1			25
	団員	258	110	51	15			434
	指導者	72	24	16	3			115
	上記の内 認定員	42	14	9	1			66
平成 ⑳ 年度	団数	13	7	3	1			24
	団員	245	104	33	16			398
	指導者	77	26	16	3			122
	上記の内 認定員	53	15	6	1			75
平成 ㉑ 年度	団数	13	7	3	1			24
	団員	243	109	32	15			399
	指導者	70	22	12	5			109
	上記の内 認定員	46	15	6	2			69
平成 ㉒ 年度	団数	13	7	3	1			24
	団員	225	99	29	15			368
	指導者	69	21	16	5			111
	上記の内 認定員	46	14	7	2			69
平成 ㉓ 年度	団数	13	7	2	1			23
	団員	233	79	30	23			365
	指導者	66	20	12	4			102
	上記の内 認定員	47	14	5	2			68

学校体育施設(体育館)開放日数一覧

[単位：日]

学校名	H18	H19	H20	H21	H22
大田小	322	326	325	303	307
長久小	326	329	318	304	305
五十猛小	177	125	141	86	101
静間小	293	253	267	276	230
鳥井小	247	233	214	207	187
久手小	311	315	273	236	256
朝波小	285	319	319	324	323
富山小	167	108	91	85	74
川合小	190	172	207	174	196
久屋小	283	277	252	256	196
大森小	0	0	0	0	0
高山小	46	0	0	0	0
大代小	40	0	0	0	0
湯里小	21	4	27	17	18
温泉津小	53	31	42	36	24
福波小	117	81	79	64	51
井田小	6	0	0	0	0
仁摩小	140	95	142	141	128
小学校計	3,024	2,668	2,697	2,509	2,396

大田一中	166	178	161	153	125
大田二中	258	258	264	214	250
北三瓶中	2	12	1	0	0
志学中	68	45	40	37	80
池田中	114	133	0	121	56
大田三中	72	53	59	105	83
温泉津中	9	11	0	0	0
仁摩中	127	125	51	38	107
中学校計	816	815	576	668	701

小・中学校計	3,840	3,483	3,273	3,177	3,097
--------	-------	-------	-------	-------	-------

体育施設利用状況

No. 1

総合体育館 (個人利用)		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用人数		利用人数		利用人数		利用人数	
競技場	一般	729人		616人		1,048人		822人	
	児童学生	73人		65人		111人		246人	
卓球場	一般	668人		620人		408人		192人	
	児童学生	112人		96人		148人		228人	
柔道場	一般	209人		248人		319人		286人	
	児童学生	22人		43人		401人		361人	
剣道場	一般	716人		498人		364人		297人	
	児童学生	237人		143人		99人		159人	
トレーニング場	一般	3,101人		3,031人		3,265人		3,666人	
	児童学生	480人		602人		544人		412人	
合計		6,347人		5,962人		6,707人		6,669人	

総合体育館 (団体利用)		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
競技場	一般	365回	9,666人	338回	14,940人	290回	11,653人	292回	15,129人
	児童学生	541回	27,161人	483回	23,479人	318回	13,499人	360回	15,018人
卓球場	一般	9回	187人	7回	100人	8回	163人	9回	128人
	児童学生	284回	4,357人	190回	3,756人	28回	707人	12回	366人
柔道場	一般	7回	375人	3回	72人	3回	108人	1回	30人
	児童学生	406回	4,480人	387回	3,872人	154回	2,328人	164回	2,539人
剣道場	一般	8回	395人	4回	88人	3回	108人	6回	60人
	児童学生	411回	4,079人	402回	4,296人	230回	2,125人	240回	3,126人
トレーニング場	一般	1回	19人	1回	26人			1回	27人
	児童学生	12回	168人						
研修室	一般	59回	1,031人	81回	807人	119回	1,284人	216回	2,222人
	児童学生	35回	783人	17回	297人	9回	220人	15回	365人
合計		2,138回	52,701人	1,913回	51,733人	1,162回	32,195人	1,316回	39,010人

市民球場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
市民球場	一般	46回	2,996人	60回	3,657人	51回	3,081人	44回	2,578人
	児童学生	119回	5,623人	151回	6,841人	130回	5,958人	159回	8,068人
合計		165回	8,619人	211回	10,498人	181回	9,039人	203回	10,646人

第2球場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
球場	一般	30回	1,774人	18回	1,029人	19回	1,210人	15回	950人
	児童学生	220回	7,393人	380回	11,332人	354回	12,236人	280回	11,388人
合計		250回	9,167人	398回	12,361人	373回	13,446人	295回	12,338人

大田運動公園		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
野球広場	一般	75回	1,606人	88回	1,755人	67回	1,690人	75回	1,507人
	児童学生	8回	485人	7回	211人	1回	100人	6回	179人
合計		83回	2,091人	95回	1,966人	68回	1,790人	81回	1,686人

体育施設利用状況

No. 2

大田運動公園		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
多目的広場	一般	73回	3,307人	80回	4,440人	90回	5,606人	95回	4,028人
	児童学生	20回	1,321人	31回	2,224人	28回	1,782人	43回	1,809人
合計		93回	4,628人	111回	6,664人	118回	7,388人	138回	5,837人

市民庭球場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	867回	5,276人	987回	5,781人	930回	4,868人	764回	4,131人
	児童学生	325回	8,796人	341回	9,876人	343回	7,772人	385回	9,534人
合計		1,192回	14,072人	1,328回	15,657人	1,273回	12,640人	1,149回	13,665人

久手テニスコート (久手小横)		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	26回	117人	28回	139人	23回	112人	22回	112人
	児童学生	16回	76人	15回	54人	20回	124人	4回	11人
合計		42回	193人	43回	193人	43回	236人	26回	123人

弓道場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	4回	72人	5回	50人	3回	80人	4回	82人
	児童学生	169回	2,231人	136回	3,854人	158回	4,057人	177回	2,972人
合計		173回	2,303人	141回	3,904人	161回	4,137人	181回	3,054人

市民プール		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	22回	80人	24回	119人	14回	79人	9回	73人
	児童学生	34回	1,961人	37回	2,050人	30回	1,895人	11回	1,028人
合計		56回	2,041人	61回	2,169人	44回	1,974人	20回	1,101人

自転車競技場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
走路	一般	41回	197人	77回	1,084人	101回	884人	113回	907人
	児童学生	28回	227人	27回	207人	29回	256人	35回	135人
合計		69回	424人	104回	1,291人	130回	1,140人	148回	1,042人

自転車競技場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
広場	一般	106回	3,122人	68回	1,621人	78回	1,758人	75回	1,684人
	児童学生	2回	220人	4回	350人	3回	170人	4回	600人
合計		108回	3,342人	72回	1,971人	81回	1,928人	79回	2,284人

体育施設利用状況

No. 3

仁摩健康公園		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
多目的広場	一般	49回	2,157人	3回	3,225人	142回	1,730人	186回	3,988人
	児童学生	84回	2,020人	193回	1,740人	113回	1,202人	68回	1,905人
テニスコート	一般	38回	285人	20回	26人	9回	31人	20回	98人
	児童学生	143回	965人	167回	2,153人	416回	5,886人	239回	2,972人
合計		314回	5,427人	383回	7,144人	680回	8,849人	513回	8,963人

温泉津総合体育館		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
体育館	一般	52回	780人	21回	315人	86回	1,318人	136回	3,430人
	児童学生	249回	8,865人	163回	5,279人	200回	6,422人	304回	8,820人
合計		301回	9,645人	184回	5,594人	286回	7,740人	440回	12,250人

温泉津総合運動場		19年度		20年度		21年度		22年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
運動場	一般	11回	165人	9回	135人	39回	329人	6回	235人
	児童学生	128回	2,765人	31回	885人	24回	955人	27回	405人
合計		139回	2,930人	40回	1,020人	63回	1,284人	33回	640人

大田市スポーツ推進計画策定経過

策定経過	会議名等
平成23年 5月19日 ～ 7月 2日	スポーツ関係団体調査
平成23年 6月 7日 ～ 6月21日	ブロック別意見交換会
平成23年 7月 2日	スポーツ関係団体意見交換会
平成23年 7月25日	第1回スポーツ振興審議会
平成23年 7月25日 ～ 8月 5日	健康保険年金課アンケート調査
平成23年 8月 8日 ～ 8月29日	生涯学習課アンケート調査
平成23年11月 1日	第2回スポーツ振興審議会
平成24年 1月21日	中間報告会
平成24年 2月13日 ～ 2月22日	パブリックコメント
平成24年 3月 1日	第3回スポーツ振興審議会
平成24年 3月27日	大田市教育委員会

大田市スポーツ振興審議会委員名簿

(平成 24 年 3 月 1 日現在)

No	氏 名	所 属 ・ 役 職 名	備 考
1	ね ぎ ゆう へい 根 宜 祐 平	大田市体育協会会長	
2	もり わき きし え 森 脇 岸 江	大田市レクリエーション協会会長	
3	ごう ばる よし ゆき 合 原 儀 行	大田市陸上競技協会会長	
4	わた なべ こう じ 渡 邊 康 治	大田市スポーツ推進委員協議会長	
5	こん どう たか ひさ 近 藤 隆 久	大田市体育協会事務局長	
6	つき もり ひろし 月 森 宏	元島根県保健体育課長	
7	ひ だか そういちろう 日 高 聡 一 郎	高等学校体育連盟 (邇摩高校体育教諭)	
8	あき かぜ みつ のり 秋 風 光 規	中学校体育連盟会長 (大田第一中学校長)	
9	く や いさお 久 家 功	小学校体育連盟会長 (静間小学校長)	
10	かわ はら せつ こ 河 原 節 子	元高校教諭：専門体育	
11	いわ ね れい こ 岩 根 礼 子	(いそたけ保育園長)	